

CHIBA UNIVERSITY

COC

2013-2018

千葉大学 地（知）の拠点整備事業

クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学

活動報告書





CONTENTS

04

クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学とは

08

新たな「教育」の推進に係るプログラム

12

新たな「研究」の推進に係るプログラム

28

更なる「地域貢献」の推進に係るプログラム

32

事業全体に関するプログラム

44

スタッフ & 運営委員会

45

オフィス案内

クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学とは

文部科学省は、大学において学内組織および自治体等との連携による地域再生・活性化を志向した「教育」「研究」「社会貢献」の取り組みを行うことによって、教育カリキュラムや教育組織の改革につなげる事業として、「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を展開しています。地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域振興策の立案実施まで視野に入れた

取り組みを進めています。この事業によって、学生が大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、その解決に向けて主体的に行動する姿勢を育成するとともに、大学のガバナンス改革や各大学（および各地域）の強みを活かした機能別分化を推進することで、地域再生・活性化の拠点となる大学づくりを目指しています。千葉大学は、2013年度に「地（知）の拠点整備事業」に採択され、「クリエイティ

ブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学（以下、千葉大学COC事業）」の取り組みを開始しました。以下のページでは、当事業の概要を紹介します。

文部科学省による
当事業に対する平成28年度評価

最高の「S」評価

S評価は76大学のうち7大学



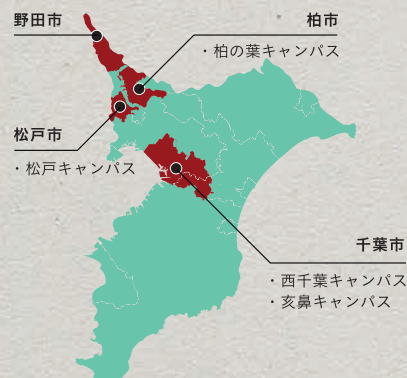
POINT

1

事業の対象となる地域

千葉大学 COC 事業では、千葉県の大都市郊外のエリア（千葉市、松戸市、柏市、野田市）を対象地域に設定し、コミュニティや自治体との強い連携のもと、全学をあげてさまざまな地域課題あるいは社会問題に対して総合的かつ包括的に取り組んできました。

これらの地域は、人口増加や経済発展を前提とした成長の時代の中で東京のベッドタウンとして、あるいは消費活動の場として発展してきました。しかし現在、このような地域には過疎高齢化や建物の老朽化、コミュニティの希薄化など、地域課題が山積しています。



POINT

2

事業の学外拠点「サテライトキャンパス美浜」

当事業では、対象地域の中で特に重点的に取り組むモデル地区として、千葉市美浜区に広がる郊外コミュニティである海浜ニュータウンを設定しています。美浜区は1969年8月からの「稲毛海浜ニュータウン埋立事業」により、全域が海岸の埋立地になっています。かつて高度経済成長期において住宅用に開発された土地であり、団地や中高層マンションといった集合住宅施設が多いという特徴があります。しかし近年では、少子高齢化に伴う学校の統廃合やコミュニティの希薄化、そして建物の老朽化など、さまざまな問題が生じています。ある意味でこの地区は、日本全国の地域がこれから迎える、「課題の先進地域」とみなすこともできるでしょう。

千葉大学は、この地区にある旧高浜第二小学校の廃校舎の一部を千葉市から借り受け、2014年10月に「サテライトキャンパス美浜」を設置しました。この施設は、地域と大学の連携およびさまざまな事業活動の学外拠点として、また地域住民同士の交流の場として位置づけています（→P.32）。





千葉大学 COC 事業では、対象地域での「教育」「研究」「社会貢献」の取組を推進するために、特任教員と各学部や大学院研究科の兼任教員等からなる「コミュニティ・イノベーションオフィス コミュニティ再生ケア部門（旧コミュニティ再生ケアセンター）＊」を学内に設置しました。オフィス内には各学部からの協力教員からなる運営委員会を設置し、年に2度ずつ開催される運営会議の中で事業の運営・展開について議論を重ねました。この「コミュニティ・イノベーションオフィス」を中心組織として、地域（市民の方々、自治会、地元企業、地元 NPO、市民活動、

学校）や、自治体（千葉県、千葉市、松戸市、柏市、野田市の関連部局）と連携して協同で事業に取り組み、地域社会の「ニーズ」と大学の有する「シーズ」のマッチングを図ってきました。

地域との連携に関しては、サテライトキャンパスをプラットフォームとして活用し、地元の住民の方々や諸団体と共にさまざまな活動を展開しました。一方自治体との連携については、約半年に1回のペースで連携自治体との協議会を開催したり（右表参照）、県・市ごとに打合せを重ねたりすることで、実効性のある連携を進めてきました。

＊ 平成 27 年度の文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC +）」への採択に伴い、「コミュニティ再生ケアセンター」を「コミュニティ・イノベーションオフィス コミュニティ再生ケア部門」に改称し、千葉県の房総エリアを主な対象地域として活動する「地域イノベーション部門」を新たに設置しました。コミュニティ・イノベーションオフィスは、都市部を中心としたコミュニティ再生ケア部門（COC）と、地域イノベーション部門（COC +）を合わせて、ほぼ千葉県全域における千葉大学の活動を推進しています。

■ 自治体との協議会・開催日程

回	年月日
第1回(準備会)	平成 25 年 10 月 1 日
第2回	平成 26 年 3 月 18 日
第3回	平成 26 年 9 月 25 日
第4回	平成 27 年 2 月 23 日
第5回	平成 27 年 8 月 6 日
第6回	平成 28 年 3 月 25 日
第7回	平成 28 年 12 月 6 日
第8回	平成 29 年 3 月 27 日
第9回	平成 29 年 12 月 12 日

千葉大学：運営委員会メンバー

自治体：千葉県政策企画課、千葉市政策企画課、松戸市政策推進課、柏市協働推進課、野田市人権・男女共同参画推進課

→ コミュニティ・イノベーションオフィス



新たな「教育」 ≫ 地域関連科目の必修化、サティフィケート・プログラム

→ P.8

普遍（教養）教育科目において必修科目群『地域と暮らし（地域コア）』を、全学共通教育プログラムとして『コミュニティ再生ケア学（サティフィケート・プログラム）』を開設し、「地域に関わり、貢献できる人材」と「地域課題を解決する専門職人材」の育成を目指しました。



新たな「研究」 ≫ 学際的な地域貢献型研究の展開

→ P.12

対象となる郊外コミュニティの多様な未解決課題を4つの研究領域に整理・分類し、地域との協働によるフィールドスタディとそれをもとにした理論研究や技術開発を進め、そのうえで新しい地域貢献型研究モデルとして「臨床ケア研究」を構築しました。



更なる「地域貢献」 ≫ 公民学連携による地域貢献活動の展開

→ P.28

柏の葉キャンパスにおいて公民学連携による新たな教育モデルとして成果を上げている「カレッジリンク・プログラム」を、千葉市・松戸市等でも展開しました。また、その他にもさまざまな公開講座・セミナー・ワークショップを実施しました。



新たな「教育」の推進に係るプログラム

当事業は普遍教育センターと連携し、普遍（教養）教育課程において「地域に関わり貢献する姿勢・マインドの育成」を目的とした「必修科目群」を設置し、その他にも地域に関する選択科目群を開講しました。また、平成26年度からは、フィールド学習や地域ボランティアなどを取り入れた実習型の講義も新設しました。

さらに、上記の普遍科目による「地域に関わり貢献する姿勢・マインドの育成」だけでなく、各学部の教育課程科目の中で「地域課題の解決に関わるさまざまな専門能力の育成」にも取り組んできました。

そして、これら「普遍（教養）教育」と「専門（学部）教育」とによる横断的な教育プログラムとして、全学部の学生を対象とした「サティフィケートプログラム・コミュニティ再生ケア学」を新たに位置づけました。



PROGRAM

1

普遍教育課程・必修科目群「地域と暮らし」

▶ プログラムの目的と概要

普遍教育（教養教育）課程において、「社会の一員として地域と関わりながら課題を主体的に設定し解決するマインドをもつ人材」を育成するために、平成27年度から地域に関する必修科目群「地域と暮らし」（地域コア）を開始しました。「地域と暮らし」は各年度20科目開講しており、全学部の1年生が必ずいずれかの科目を受講して地域の課題の基礎を学びます。

なお、この科目群は、以降のページで紹介するプログラム「コミュニティ再生ケア学」の修了に必要な科目でもあります（→P.9）。

■ 「地域と暮らし」科目・担当一覧（2017年度）

科目名	担当	所属
団地再生まちづくり	鈴木 雅之	国際教養学部
地域の地学的背景を知る	宮内 崇裕	理学研究科
エコまちづくり	田島 翔太	工学研究科
チームで取り組む地域活動入門	石丸 美奈・他	看護学部
女性の安全な人間関係と地域での被害者支援	清水 栄司	医学研究院・医学部
地域で変わる・地域を変える交通概論	加藤 美奈	高等教育研究機構
地域づくりと地方の再生	齋藤 雪彦	園芸学研究科
まちづくりと地域財政	大塚 成男	法政経学部
サイエンス、アートと地域社会	縣 拓充	教育学部
大学と地域の共創まちづくり	上野 武	工学研究科
地域振興とデザイン	今泉 博子	工学研究科
まち・ひと・しごと創生	阿部 厚司	高等教育研究機構
健康都市・空間デザイン論	花里 真道	予防医学センター
地域とNPOの社会学	清水 洋行	文学部
地域づくりとアートマインド	神野 真吾	教育学部
地域に住まう	小林 秀樹	工学研究科
超高齢社会論	井出 博生	医学部付属病院
公共施設の再編・利活用	柳澤 要	工学研究科
地域創生としごとづくり	大蔵 純也	高等教育研究機構
地方の地域づくり	和田 健	国際教養学部

▶ プログラムの目的と概要

「コミュニティ再生ケア学」は、学生の主専攻である学部でのそれぞれの専門性をもちながら、地域・コミュニティに関する幅広い教養と、地域再生の知識、実践力を備え、NPO、企業、自治体などそれぞれの立場で地域再生のために活躍できる人材を育成する教育プログラムです。

このプログラムは、普遍教育科目と学部の専門教育科目を横断する全学共通教育プログラムになっています。普遍教育科目では、地域および地域再生に関する基礎的な知識やスキルなどの教養を幅広く学びます。一方専門教育科目では、個々人の主専攻や関心に基づき、地域再生に活かすことのできる専門的な知識やスキルを学びます。これらの学びの融合によって、地域の未来をつくるためのクリエイティブな課題発見力、課題解決力、実践力、コミュニケーション能力を身につけていきます。

なお、履修証明書取得要件で定められた単位を修得した学生には、履修証明書（サティフィケート）が発行されます。

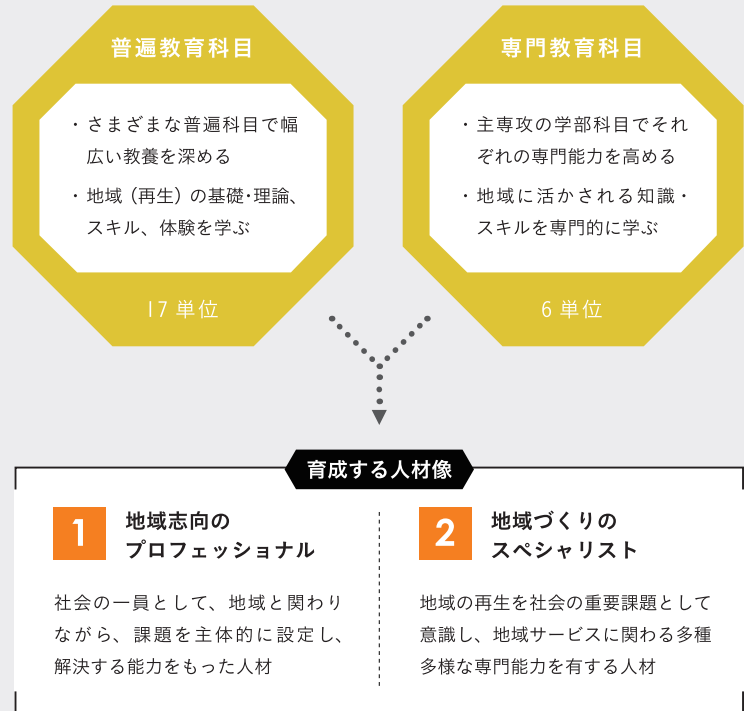
▶ 履修証明の取得要件

コミュニティ再生ケア学の履修証明書を取得するには、右の「履修証明書の取得要件表」に定められた科目種別に属する科目23単位が必要になります。科目種は、大きく分けて普遍教育科目と各学部の専門教育科目の2つに分類されます。

普遍教育科目は、左記に紹介した全学必修科目「地域と暮らし（→P.8）」、およびいくつかの教養展開科目（コミュニティ再生ケア学の趣旨に合致する「講義・体験型」「PBL・実習型」の授業）から構成されます。各学部の専門教育科目については、地域や地域活性に関連する科目が選定されており、主専攻以外（他学部）の学生も履修できる科目が含まれています。

（次のページからは、選択科目の「PBL・実習型」の科目を紹介します）

■ コミュニティ再生ケア学の構造



■ 履修証明書の取得要件表（科目種別）

			科目種	必要単位数
普遍教育科目	必修	講義型	地域と暮らし → P.8	1
			地域（再生）の基礎	4～10
	選択	講義・体験型	地域（再生）に関する多様な分野・テーマ	2～4
			地域（再生）に資するスキル	2～4
			PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）	2～6
	PBL・実習型 → P.10	カレッジリンク・プログラム → P.28		
地域活動体験				
		インターンシップ		
専門教育科目			地域（再生）に関する専門内容	6
履修証明書の取得要件				計 23

PBL / プロジェクト・ベースト・ラーニング

この科目群は地域課題の解消や地域の魅力づくりをテーマとして、学生自身が主体的に事業計画・活動計画を立て、実践していくものです。自分たちが地域課題に対して何ができるのか考え、実践します。

科目名	担当	所属
サテキャンで地域とつながる	鈴木 雅之	国際教養学部
スポーツによるコミュニティづくり	小泉 佳右	国際教養学部
文化をつくる	神野 真吾	教育学部
地域クリエイティブ演習	木下 勇	園芸学研究所

PBL ① 『サテキャンで地域とつながる』

地域の中心としてのサテキャン（サテライトキャンパス）を舞台に、地域再生の観点から、大学としてどうあるべきかを考えます。その上で、学生としてサテキャンをどのように活かせるかを考え、プロジェクトの企画を立てます。受講生は、プロジェクトに自ら主体的に関わることで、地域再生のあり方を体験的に学習します。

2017年度は、サテキャンにて2月に開催された千葉市療育センターなどとの共同イベントの中で、「苔玉作り体験&ハーブティーカフェ」という企画を実施しました。63名の市民が参加し、オフライン、並びにSNS上で、人々の間に「つながり」を作る試みを行いました。



PBL ③ 『文化をつくる』

千葉市美術館や千葉市民ギャラリー・いなげ等の近隣の文化施設、アーティストやクリエイターらと協働し、社会や地域におけるアートの可能性を探究する、通年のプロジェクト型の授業です。2003年から開講されており、千葉大学のPBL科目の中でも先駆的な役割を担っています。前半は、アーティストやクリエイターによる複数のワークショップに参加し、アートの視点やクリエイティブな協働のあり方について体験的に学びます。後半は、年度ごとに異なるアーティストと協働しながら、地域の中で様々な活動を展開していきます。

2017年度は、舞台演出家の関美能留氏・舞台音楽家の粟津裕氏とともに、「自分の枠をはみ出す」ことをテーマにした、市民向けのワークショップを複数回開催しました。



PBL ②

『スポーツによる コミュニティづくり』

地域社会が持つニーズ（コミュニティが抱える問題の解決や志向性）に対して、スポーツを通して果たすために、スポーツイベントを企画・運営します。

企画・運営作業を通して、スポーツの文化性及び地域社会の在り方について考えるとともに、イベントプロデュース力を養います。スポーツの社会的及び文化的価値を学習し、スポーツが現代社会の問題を解決するための意義や方法論を探ることができます。

地域社会が持つニーズを把握し解決に向かい、それに対してより深い知識で対応できる力を養います。

PBL ④

『地域クリエイティブ演習』

少子高齢化、地域経済の低迷、空き家、空き地の増加、道路、公園の公共空間の魅力低下、地域内のコミュニケーションの希薄化等地域の課題を捉えて、一大学生として、また大学として何ができるかを、地域に身を置く事で問題解決の方向を考えます。課題の大きさに負けることなく、地域の人とのコミュニケーションやワークショップから視点を変え、発想を広げて、創造的に問題解決を考える方法を身につけていきます。

(写真は松戸地区の空き家活用のため地域のまちづくり団体や国際プログラムの学生とともに現場調査をしている様子)

地域活動体験

この授業では、地域再生を実践するNPO等にボランティアとして参画し、地域活動や市民団体の役割とその実践について学び、視野を広めます。そして、地域の活性化のためにできる事、活性化を担うために大切な事を具体的に掘り下げ、地域社会発展について理解を深め、その後の勉学への取り組み方を発見します。

千葉県内で地域課題の解決に取り組むNPOなどの団体で、地域活動を50時間以上おこなうことが求められます。

■これまでの派遣先の例

- ・まちづくり千葉
- ・学童保育の会 この指とまれ
- ・HELLO GARDEN
- ・NPO支援センターちば
- ・バランス21
- ・ほのぼの研究所
- ・エコメッセちば実行委員会
- ・ちば地域再生リサーチ
- ・土気NGO
- ・千葉中央おやこ劇場
- ・千葉市民活動支援センター
- ・ピオスの会
- ・千葉盲ろう者友の会
- etc

地域志向型インターンシップ

自治体や企業等での地域に関わる就業体験を通して、地域（再生）に関連した知識や理解を深め、将来の職業選択における自らの適性・能力を考えます。組織・団体等の実態に触れることにより、就業のミスマッチを防ぐという目的もあります。この授業では、自治体・企業・団体等で、40時間以上の研修が求められます。

■これまでの派遣先

- ・千葉市 ・松戸市 ・生活協同組合コープみらい
- ・独立行政法人都市再生機構 etc

▶ 教育の推進に係るプログラムの成果

全学部における、地域に関する学習を行うことをシラバスで明示している授業科目数

H25	...	H26	...	H27	...	H28
97 科目		109 科目		143 科目		165 科目

普遍教育における、地域に関する学習を行うことをシラバスで明示している授業科目の履修学生数（延べ人数）

H25	...	H26	...	H27	...	H28
398 名		904 名		3598 名		4118 名

このような科目を受講した結果、地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まったと思う

H25	...	H26	...	H27	...	H28
91 %		88 %		83 %		84 %

サティフィケートプログラム「コミュニティ再生ケア学」履修登録者数

H27	...	H28	...	H29
86 名		102 名		120 名

H28：3年生5名に履修見込み証明書を発行

H29：4年生7名に履修証明書、3年生7名に履修見込み証明書を発行



新たな「研究」の推進に係るプログラム

地域志向教育研究費事業

「地域志向教育研究費事業」とは、クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学に関わる地域課題を解決するような学際的な研究を進めると同時に、その成果を本学の教育や地域社会に還元することを推進する目的を持ったものです。毎年度、学内の全教員に対して公募を行い、先導性、普及性の高い優れた研究プロジェクトに対して、当該研究活動の実施に要する費用を助成しました。

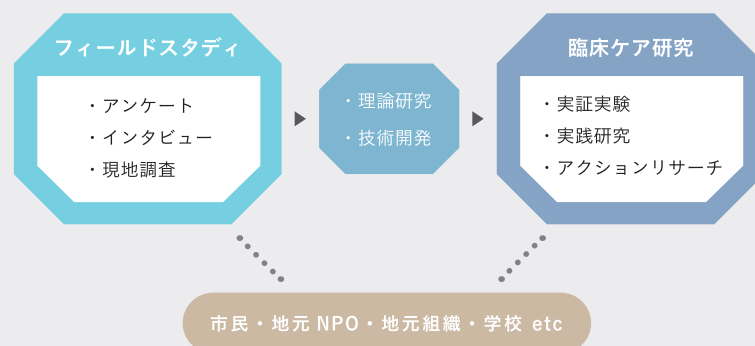
なおいずれの研究課題にも、自治体と意見交換を行いながら、地域ニーズにあった取組体制を構築することが求められます。また、地域のNPO等の団体や市民と協力しながら、具体的な地域や現場に入り、地域課題の本質を理解するとともに、実践的な研究を進めていくことが期待されます。

▶ プログラムの概要・構造

このプログラムでは地域との連携・協力のもと、「フィールドスタディ」とそれを支える理論研究を進め、それをもとに新しい地域貢献型研究モデル「臨床ケア研究」を構築してきました。

また、地域志向の研究活動を、地域課題に沿った形で、かつ学際的に進めるために、「超高齢化領域（①超高齢化系）」「住宅・コミュニティ（②住まい・暮らし系、③コミュニティ系、④地域文化系）」「⑤人権・男女共同参画領域（人権・男女共同参画系）」「基盤・空間領域（⑥基盤・空間系、⑦地域経済系）」の、4グループ7系統に整理しました。

■ 地域志向教育研究費事業の構造



■ 研究活動のグループ・系統

グループ	系統
グループ1 超高齢化領域	①超高齢化系研究
グループ2 住宅・コミュニティ領域	②住まい・暮らし系研究
	③コミュニティ系研究
	④地域文化系研究
グループ3 人権・男女共同参画領域	⑤人権・男女共同参画系研究
グループ4 基盤・空間領域	⑥基盤・空間系研究
	⑦地域経済系研究

▶ 研究プロジェクトの公募条件

公募条件としては、下記に示すように、学際的な推進が行われるようにするとともに、その成果を学生の教育、地域社会に還元することにより、全学的な地域志向の取組となるように配慮しました。

■ 地域志向教育研究経費公募条件（平成 29 年度）

提案事業は、「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」を推進するための取組であり、次の (a) から (e) のすべての要件に該当するものであることを条件としました。

a 取組は、千葉市、松戸市、柏市、野田市の4市における課題解決を対象とするものであること

※対象地域の区域を明らかにした提案を行うこと

※「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」では千葉市美浜区の海浜ニュータウンをモデル地区としているが、それ以外での地域での提案も可能

※千葉市、松戸市、柏市、野田市の4市以外の地域のみでの提案は対象とはならないが、4市の課題解決と組み合わせた取組等の提案は可能

b 地域課題の内、以下に掲げるテーマを行うものであること

- ①超高齢化系
- ②住まい暮らし系
- ③コミュニティ系
- ④地域文化系
- ⑤人権・男女共同参画系
- ⑥基盤空間系
- ⑦地域経済系

※複数のテーマを横断する提案も可能だが、主要なテーマを一つ選択し提案を行うこと

c 地域課題を解決する取組にあたっては以下によること

- ①複数のテーマ、教員との学際的、分野横断的な研究や取組であること
- ②フィールドワーク、アクションリサーチなど地域（現場）に直接入る研究や取組であること
- ③自治体やNPO等との連携を図りつつ進める取組であること

d セミナー・公開講座等を開講し、研究成果を地域社会に還元すること

e 他からの類似の補助金、経費の助成等を受けていないこと

▶ 研究プロジェクト数

上記の研究推進計画に基づいて、年度ごとに学内公募を実施しました。いずれの年度も7つの研究課題に対して幅広く応募がありました。採択した研究プロジェクト数は下記の通りです。5年度の総計としては、計49件の研究プロジェクトに対して、助成を行いました。

■ 研究プロジェクト数の推移・総計

年度	新規課題	継続課題	年度計
平成 25 年度	15	-	15
平成 26 年度	3	15	18
平成 27 年度	11	10	21
平成 28 年度	10	5	15
平成 29 年度	10	5	15

平成25年度 新規研究事業

趣旨・目的

プロジェクト数
計 15

千葉海浜ニュータウン地区在住転倒予防 教室参加者における身体的・心理的状況 と生活習慣に関する実態調査

代表者名 : 高林 克日己 (医学部附属病院)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H25 ~ H26

転倒予防で中心なのは運動であり、特に体のバランス能力を高め、筋力や柔軟性を保つトレーニングが必要とされている。本研究では運動と食事を組み合わせることで効率的にかつ楽しく高齢者のADLの向上・維持をめざす。H25年度は運動と栄養管理を組み合わせた転倒予防教室を開催する。この転倒予防教室を通して、介入試験に向けて地域でのリクルートメント方法を中心にプログラム実行可能性と参加対象者の身体状況の調査、生活習慣調査を行う。H26年度は、脊柱の柔軟性を増すストレッチ教室介入により、教室参加者の背骨の柔軟性が改善されるかスパイナルマウスにより評価することを目的とする。また、脊柱の柔軟性が増すことにより、教室参加者の生活機能の改善につながるかを評価する。

住み慣れた地域で自分らしさを自覚し 豊かな日々を生きるための対話促進開放型 コミュニティの形成

代表者名 : 長江 弘子 (看護学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H25 ~ H26

今後、高齢多死時代を迎えるに当たり、人々が最期までどう生きたいかについて語り合うことは、日々の暮らしかたに変化をもたらし、より自分らしい生き方を人に伝え人生を豊かにする方略を得る機会と場を提供することは重要なことと考えられる。本研究では、地域の住民と高齢者ケアを担う保健医療専門職が「望ましい最期までの生き方」Good Lifeをどのように描いているかを共有化し、自分の人生における価値や地域での暮らしの大切さを自覚していくプロセスを明らかにする。また、個々人の望みを叶えるために地域社会はどうあればいいか、自らも地域の構成員として何ができるかを考える場と機会を提供し、地域における連帯感や人々とのつながりのあるコミュニティの形成を試みることを目的とする。

認知症子ども力プロジェクト

代表者名 : 平野 成樹 (医学部附属病院)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H25 ~ H27

アルツハイマー病を中心とした認知症患者は、無視や子ども扱いなど他者から不当に扱われると心理・行動症状(以下、BPSD)が悪化し、逆に過ごしやすい環境や楽しい事を行うなど周囲の関わり方を工夫することでBPSDが改善し、家族の介護負担の軽減につながる。認知症のひとつとして孫と楽しく交流できる機会が増えれば、症状が安定し、明るい家庭や社会ができると考えられる。一方、こども世代(認知症の人にとっては孫世代)にとって認知症という病気に対する理解が不十分であり、不安や恐れがある可能性がある。孫世代の認知症疾患教育を通して、従来の家族関係のような世代間を超えた関係性を持ちながら認知症の人が住み慣れた地域で安心して生活できる街作りを目指す。

在宅医療のニーズに対応する 薬剤師養成事業

代表者名 : 荒野 泰 (薬学研究院)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H25 ~ H26

現在、医療の高度化・超高齢化等を背景に、医療の効率化、効果的な提供を目的とする在宅医療の推進が課題となり、地域医療における在宅医療へ貢献する臨床能力に優れた薬剤師の養成が重要視されている。地域医療のなかの在宅医療における薬局の役割としては、患者宅における薬剤管理が中心になるが、医療の高度化に伴い IVH (Intravenous Hyperalimentionation) やインフューザーポンプ等による輸液療法に関する専門的知識が求められており、その調製には無菌製剤処理を実施する設備に加え、薬剤師の知識・技術習得も必須となる。本事業では、より多くの地域の薬剤師に対して、輸液療法における注射剤混合調製に関する知識及び技術の修得を支援することに加え、これらの実技修得の効果的・効率的な方法を研究するとともに、地域医療に貢献する臨床能力に優れた薬剤師養成を目的とする。さらに、研究で得られた成果は、社会人 (科目履修生) に対するリカレント教育に還元する。

地域医療で薬剤師に求められるコミュニケーション能力の評価方法、およびフィジカルアセスメント能力開発についての検討

代表者名 : 山下 純 (薬学研究院)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H25 ~ H27

近年、障害の状態を分類して評価するのではなく、生活でヒトが達成できる複数の機能のセットとしての (潜在) 能力を評価しようという国際生活機能分類 (ICF) が、WHO により提唱されている。これにしたがって薬剤師にも、自ら培ってきた本来の技能 (薬事業務等) だけでなく、在宅医療に求められる臨床技能を習得して、ICF に基づく包括的な職能拡充を図ることで、地域社会に貢献していくことが求められている。本研究では、地域志向の在宅医療において薬剤師が果たすべき多くの役割の中から、特に、問診やバイタルサイン収集など、薬物療法の経過観察や有効性・安全性の評価・実践のための介入方法であるフィジカルアセスメント (PA)、あるいは患者主導による行動変容に向けた介入時のコミュニケーションの在り方についてのファーマシューティカル・コーチング等の臨床技能の習得手法について取り組み、課題と質の向上について検討していくことを目的とする。

超高齢化に向けた暮らし改善型認知活動支援の持続可能なサービス提供手法に関する研究

代表者名 : 大武 美保子 (工学研究科)
対象地 : 千葉市・柏市
応募領域 : 超高齢化系・住まい暮らし系
実施年度 : H25 ~ H26

本研究の目的は、認知活動支援事業を他地域に展開することを通じ、実施者にとっても参加者にとっても事業へ参加する価値を向上させ、人材育成の課題を解決する手法を、実証実験により明らかにすることである。H25 年度事業では、共想法による認知活動支援事業を魅力的な他地域、具体的には、東京都台東区谷中、茨城県桜川市真壁町、千葉県千葉市海浜ニュータウンなど、千葉県内および千葉県から日帰り圏内において展開する「街歩き共想法」事業を実施し、その有効性を確認する。H26 年度は、この事業を発展させ、街歩き共想法を、要請のある地域の在住者や地域活動に関心のある大学生と共に企画実施することを通じて、地域在住者や、大学生など、多世代が認知活動支援事業の担い手となるための手順を、企画や実施を通じて明らかにする。

千葉大学柏の葉カレッジリンク Jr. プログラムの開発

代表者名 : 野田 勝二 (環境健康フィールド科学センター)
対象地 : 柏市
応募領域 : 住まい暮らし系・コミュニティ系
実施年度 : H25 ~ H27

生涯学習という言葉は高齢者の学習プログラムと言うイメージが強い。しかし、本来の生涯学習とは、ゆりかごから墓場まで、そして次世代育成までも想定した『幸せとは何か』ということに向き合う学習であると考え。カレッジリンクのような問題解決型の学習プログラムは、受講生同士がお互いによく知り合う交流の場にもなるため、意図的に異世代が関わる問題学習型プログラムを展開できれば、異世代間の交流を促せると考える。また、環境健康フィールド科学センターは、環境、健康、農、食をキーワードとしており、子どもたちが興味を持つような実学としての知の資源を多く有している。そこで本研究では、運営やサポートに地域事業者・団体やカレッジリンク修了生が関われるような仕組みを持った、子ども、あるいは親子向けの学習プログラム (仮称:カレッジリンク Jr. プログラム、以下:カレッジリンク Jr.) の開発を行う。

生活課題解決リフォームと地域コミュニティのサポートを複合する住まい・暮らし向上研究

代表者名 : 小林 秀樹 (工学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 住まい暮らし系
実施年度 : H25 ~ H26

千葉市の海浜ニュータウンの古い住宅ストックは、小規模、画一的な間取り、低性能水準、標準的な旧式のインテリアなどの特性をもっている。この地域では、高齢化が進んでおり、それに伴う認知症、健康、孤独死、買者難民、ひきこもり、貧困化、など、さまざまな課題がある。これらの課題を解決するにはコミュニティの力も必要となるが、地域住民や地域組織の担い手やサポート体制が十分に整えられているとはいえない。以上の課題認識に立ち、ニュータウン団地に噴出する生活課題を住宅の側面で改善を行うリフォーム技術と設計手法を開発する。また、住宅だけでなく、生活課題を解決する最小限費用で可能なサポートを工夫して、団地住民を切り捨てずにセーフティサポートを構築し、暮らしと生活の安定化をサポートする。これらにより、住宅リフォームと地域コミュニティの生活サポートが組み合わされた複合的な住まいと暮らしを提案する。

コミュニティの基盤空間における被害者対応と電話相談支援

代表者名 : 後藤 弘子 (専門法務研究科)
対象地 : 千葉市・その他 (千葉県)
応募領域 : コミュニティ系・基盤空間系
実施年度 : H25 ~ H27

千葉県、千葉市などでは、性犯罪、ストーカー犯罪など、コミュニティの基盤空間において、被害者を守る効果的な方法が問題となっている。性犯罪・性暴力被害の特殊性を考えると、被害者のプライバシーと匿名性が堅守された状態で接触できる電話相談、あるいはネットを介しての相談や情報収集が有効と考えられる。被害の早期には、医療および法律の専門性を活かした支援が望まれることから、国立病院機構千葉医療センターの協力を得て、千葉性暴力被害支援センターちさとをフィールドとして、電話相談業務を実施し、医療受診に繋げるまでの支援活動を行う。加えて、既に「潜在化」してしまった被害者に対しては、インターネットを介した情報提供とメール相談などの可能性について調査研究を行う。電話やインターネットによる相談・情報提供を切れ目なく行えるように、ボランティア・支援員の養成講座を実施し、基本的対応を心得た地域のサポーターを養成する。

Lived Space (生きられた空間) の創出による地域活性化のための基礎調査

代表者名 : 木下 勇 (園芸学研究科)
対象地 : 松戸市
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H25 ~ H26

松戸駅周辺は猥雑、雑然としたイメージが強い。また地域経済の低迷、消費動向の変化で空き店舗、空きビル床が多く存在し、道路、公園の公共空間も魅力的ではない。そこで園芸を中心とした食と緑の専門の大学の知識を、これら空間を「暮らしの芸術都市」の空間として生き返らせる取り組みを大学と地域の連携で進める。今年度はその戦略構想のための基礎調査を関係機関や団体に意向を探り、また地域の現状からの具体的な活動の場の抽出を行う。地域再生を可能とする市民連携を促進するために、大学が仲介し、具体的な活動の提案や今後の方向性等のとりまとめの支援を行う。

アートで育むオルタナティブ・シンキング — つながる仕組み、つながる装置を考える —

代表者名 : 神野 真吾 (教育学部)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 地域文化系
実施年度 : H25 ~ H26

千葉市域には地域コミュニティのつながりや、そのつながりが生み出す文化的環境が十分に発展してこなかったことが一つの問題として顕在化している。このような状況は、地域の課題を自分のものとして捉え、主体的に関わろうとする市民を醸成できていないという点から生じていると考える。本提案では、自らの感覚を大事にししながら様々な物事を捉え、判断する「感性的認識力」と、そのような感覚に基づきながら、既存のものとは異なるあり方を柔軟に想像・思考する「オルタナティブ・シンキング」の二つを、市民が身につけることが可能な、持続的発展を担う人材に求められる基礎的能力として位置づける。そして、学生と市民を対象にそれらを育むための体験の場を設けると同時に、大学と地域が密に連携しながら、人と人が「つながる仕組み」や「つながる装置」を考え、サテライトキャンパスを始め、様々な地域でそれを用いた実践に取り組む。

ドメスティック・バイオレンス（DV）の 音声感情認識装置による抑止効果の検討

代表者名 : 清水 栄司（医学研究院）
対象地 : 千葉市・柏市・野田市・その他（千葉県）
応募領域 : 人権・男女共同参画系
実施年度 : H25～H27

大学院医学研究院では、不安障害や鬱病等に認知行動療法を適用し効果を上げてきたが、そのノウハウと成果を活かして、大学連携型「千葉性暴力被害支援センターちさと」の立上げに際して、支援員養成と支援システム構築という点で貢献した。ちさとには主に警察と連携した支援から開始し、医療的支援のマニュアルの作成、支援システムの構築を行ったが、本研究では、①性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの機能を検討し、ちさとの支援システムの改良を行うと同時に、県内関係機関のネットワークを構築する。②被害に最も遭いやすい10代にアプローチするため、ゲートパーソンになりえる中学校・高等学校の養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育相談担当者を対象に、性暴力被害者への対応に関する啓発活動を行う。③音声認識ソフトを被害者の状態把握に使用するため、音声と気分の関係に関する研究を継続して行う。

千葉市海浜ニュータウンの教育施設の 老朽化・再編に関する調査研究

代表者名 : 柳澤 要（工学研究科）
対象地 : 千葉市
応募領域 : 基盤空間系
実施年度 : H25～H27

本研究は、千葉市海浜ニュータウンの教育施設の老朽化対策や再編における課題を明らかにし、また他地域・地区の先進事例のケーススタディも行いながら、その対策や再編のあり方を提案しようというものである。特に良好な地域コミュニティ形成の視点からの効果的な施設整備や空き教室転用、また教育施設と他の地域公共施設（公民館・デイケア施設・社会教育施設・社会体育施設など）の複合化・併設化の方策を探っていきたい。また施設転用や複合化に関しては施設整備などのハード面のみならず、地域と学校の効果的な連携のための運営・プログラムなどソフト面における工夫も必要となる。本研究ではハード・ソフト両面からの分析・提案を行っていくとともに、地域や学校（児童生徒など）とのワークショップも行い意見交換をしていきたい。

千葉市・柏市の地域経済とコミュニティ の活性化を目指す教育研究プロジェクト

代表者名 : 大塚 成男（人文社会科学研究科）
対象地 : 千葉市・柏市
応募領域 : 地域経済系
実施年度 : H25～H27

本プロジェクトでは、東関東の経済的中心としての千葉市の再活性化を目的とし、日本の地方都市の抱える問題を経済・経営・政治・行政の多角的な分野から研究を進めるとともに、特に中心市街地の地域ビジネスコミュニティ・地域住民団体などと協働しつつ、賑わいのある市街地の再生を目指す。また、そのための活動をベッタウンにおける市民協働の活動とリンクさせ、千葉大学学生と地域との関わりを拡大することで、コミュニティの活性化を促す。また柏市においても、市の財政状況に対する理解を促すための活動を実施し、市と市民との協働活動のための基盤を形成する。

教育学部を基盤とした 地域教育支援体制の整備

代表者名 : 藤川 大祐（教育学部）
対象地 : 千葉市
応募領域 : 地域経済系
実施年度 : H25～H27

千葉市では、学校へのタブレット端末等 ICT 機器の導入、子どもが起業家精神を学ぶ教育の推進、子育て支援に関わる学習の場の展開等、教育に関わるさまざまな課題があり、これまでも千葉大学教育学部との連携のもとで、取り組みを重ねている。しかしながら、それぞれの課題について不十分な点があり、確固とした基盤のもとに教育をめぐる連携体制を確立することが求められる。本事業においては、教育学部を基盤とした産学官連携の体制を整備し、千葉市において特に必要と考えられる取り組みを実行する。具体的には、児童生徒用タブレット端末が導入される状況を想定した「学校 ICT サポートプロジェクト」、地域との連携によって小中学生や大学生の起業家精神涵養を目指す「起業家教育プロジェクト」、地域で子育てに関係する人が子育てに関して学んだ上で学んだことの地域への還元を目指す「地域子育て支援プロジェクト」を実施する。

平成26年度 新規研究事業

趣旨・目的

プロジェクト数
計3

超高齢社会における市民啓発活動

代表者名 : 藤田 伸輔・井出 博生 (医学部附属病院)
対象地 : 千葉市・松戸市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H26～H28

海浜ニュータウンでは著しく高齢化が進展しており、地域コミュニティの維持、独居高齢者の増加、医療・介護ニーズの増大等が問題となっている。千葉大学、NPO法人、地元企業等が住民を対象とした様々な補助・啓発活動を行い、実績を積んできているが、一層効率的、網羅的な地域住民の啓発のための方策が求められている。これまで終末期医療に関連した内容を中心に啓発を行ってきたが、本事業では、市民による自主的な啓発活動の広がりを目指すとともに、啓発の効果を測定することも織り込んだ活動を行う。

土気地区のまちづくり — 半分社会の郊外像から発想する

代表者名 : 岡部 明子 (工学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 地域文化系
実施年度 : H26

日本のどこでも、人口減少が確実に見込まれる今日、規模が半分になる将来像を当事者である住人たちと共通認識にし、まちづくりを考えいくことが求められている。参加型の課題解決型まちづくりでは、高齢者問題など今ある短期的な課題に終始せざるをえないのに対して、本取組では、規模が半分になった次世代のまちでも安心して暮らせる方向性を見出すとする挑戦である。対象地区には、農業に携わる若者と郊外に暮らし続けるかたちを模索する若者がいっしょにまちづくりに着手している。彼らと大学が連携することで、小さな実践から始めて、半分社会の郊外像から発想するまちづくりの道筋をつくる。

実践力の高い地域スポーツ指導者の育成を目的とした、大学授業によるスポーツイベントの企画・運営

代表者名 : 小泉 佳右 (教育学部)
対象地 : 千葉市・その他 (千葉県)
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H26～H28

千葉県内には、数多くのスポーツ競技のトップチームが存在する、全国にも非常に稀なスポーツ環境の潜在力を持つ都道府県である。一方で、各競技団体はそれぞれ独立しており、競技横断的な連携協力活動はこれまでのところあまり多くない。各競技団体の連携は、充実したスポーツ環境を顕在化させ、県民のスポーツ意欲を向上し、健康の保持増進・コミュニティの活性化を惹起するきっかけとなると考えられる。また、そのためには、地域スポーツに携わる人材が、量的及び質的にも増加・向上する必要がある。本事業では、地域スポーツに精通し実践力の高い人材を育成するために、普遍教育科目にて、スポーツイベントを企画・運営する。このイベントを通して、スポーツによる地域の活性化を促すことと同時に、授業受講生がスポーツイベントの企画・運営作業を通して、地域およびスポーツに対する問題意識がどのように変化したのか評価することを目的とする。

平成27年度 新規研究事業

趣旨・目的

プロジェクト数
計 11

千葉市の保険薬局を対象とした 在宅医療に関する実態調査

代表者名：高野 博之（薬学研究院）

対象地：千葉市・その他（千葉県）

応募領域：超高齢化系

実施年度：H27

チーム医療である在宅医療において、薬の専門的知識をもつ薬剤師の存在意義は極めて高く、重要な役割を果たすことが期待される。在宅医療に関心のある薬剤師は多く存在すると考えられるが、なかなか実行に移せない人が多いのも現状である。その原因はいろいろと考えられるが、千葉県あるいは各市に特徴的な原因や理由が存在する可能性も考えられる。国民および医療従事者が在宅医療の必要性を徐々に認識しつつある今こそ、千葉県の在宅医療の実態を調査する意義は多大である。そこで、最初の取り組みとして千葉市薬剤師会に所属する約500カ所の保険薬局を対象に在宅医療に関するアンケート調査を行う。その結果をもとに、在宅医療に従事している医療関係者に参加してもらいセミナーを開催し、千葉市での在宅医療の現状と問題点を討論する。これらの成果を今後、在宅医療を推進するための体制づくりや教育・講演会の企画立案に役立てる。

シルバーリーダー主催転倒予防教室に おける、脊柱可動域改善効果

代表者名：藤田 伸輔（医学部附属病院）

対象地：千葉市

応募領域：超高齢化系

実施年度：H27

千葉海浜ニュータウン地区では、独居もしくは高齢者のみの世帯が増加している。また、エレベーターの無い5階建て住宅が多い地区であり、本地区在住高齢者にとって、階段を上れることと転倒を防止することが介護予防事業の中でも特に必要性が高いと考えられる。転倒予防で中心となるのは運動であり、特に体のバランス能力を高め、筋力や柔軟性を保つトレーニングが必要といわれている。近年、脊柱の柔軟性が転倒のリスクに関連することが知られており、筋肉をつけるトレーニングと合わせて脊柱の柔軟性を向上させるストレッチも転倒予防において効果があると考え、昨年度、脊柱の柔軟性を増すストレッチ教室6か月実施による介入研究を行った。しかし、6か月の介入では不十分であり、今後も継続していくことが必要であると考えた。そこで本事業では、シルバーリーダー主催によるストレッチ教室を展開し、効果が得られるか検証することを目的とする。

健康観光支援サービスの開発と実践を 通じた地域活性化人材育成手法の開発

代表者名：大武 美保子（工学研究科）

対象地：千葉市・柏市

応募領域：超高齢化系・住まい暮らし系・地域文化系

実施年度：H27～H28

本研究の目的は、認知活動支援事業を健康観光支援サービスとして展開することで、人材育成の課題を解決する手法を、実証実験により明らかにすることである。本事業では、1) 共想法による認知活動支援事業を魅力的な千葉県内の観光地、具体的には、千葉県成田市成田山において、「街歩き共想法」事業を実施し、街歩き共想法に加えて集まったコンテンツをフォトブックにするワークショップを行い、その有効性を確認する。2) その上で、そこに改良を加え、千葉県内で実施すると共に、地域で実施可能な関連団体との協力関係を、実施を通じて構築する。具体的には、全国の各地域に存在するウォーキングクラブとの連携を視野に、柏の葉ウォーキングクラブと連携し、実施することを通じて、実施上の課題を明らかにしつつ、実施手順を他地域に展開可能な形で整理する。

「生活支援サービス」の創出に向けた市民活動・社会起業と学生とのコーディネート の仕組みづくりに向けた調査研究事業

代表者名 : 清水 洋行 (文学部)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系・コミュニティ系
実施年度 : H27 ~ H29

2015年の介護保険制度の改正にともない、新しい「生活支援サービス」づくりが喫緊の課題となっているが、学生を含む多様な市民と市民活動をつなぐためのコーディネートの仕組みが不十分であり、「生活支援サービス」の創出に向けた人材募集や人材育成などについて、市民活動と学生・市民のコーディネート機能を含む多様な中間支援機能の強化や連携が課題である。本事業では、「生活支援サービス」を含む対人サービス関係の市民活動における学生の参加状況について、分野別の動向や課題を明らかにするとともに、それらの課題をふまえて、市民活動と学生をつなぐ仕組みのあり方について、市民活動と学生とのマッチングのみでなく、大学の授業や活動団体（NPO法人ほか）の課題などもふまえて、学内外の中間支援機能をもつセンター、大学の授業の役割とそれらの連携について検討する。

居住環境の改善に向けた 省エネと健康に関する調査研究

代表者名 : 中山 茂樹 (工学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 住まい暮らし系
実施年度 : H27

海浜ニュータウンは高度成長期に首都圏のベッドタウンとして急速に計画・建設された団地を有し、築40年前後が経過し気密性や設備機器の老朽化、バリアフリー対策の不足など、居住環境に関する多くの課題を抱えている。さらに、居住環境の悪化が若年層の転出といった悪循環を招いており早急な対策が求められている。本研究は、高度成長期に建てられたニュータウンの省エネと健康に関する実態を調査することで省エネで健康な居住環境の実現のための課題を把握し、さらには住民の生活環境に対する意識の向上と地域コミュニティの強化を住まい・暮らしの分野から啓発するための手法を得ることを目的とする。本研究で得られた知見は将来的に健康エネルギー・マネジメントハウスの具体的な立案に応用することで、地域のエネルギー自立や健康増進といった地域環境に根差した居住環境の計画に結び付ける。

見る・知る・伝える千葉 ～創作狂言による房総活性化プロジェクト～

代表者名 : 柴 佳世乃 (文学部)・兼岡 理恵 (人文科学研究院)
対象地 : 千葉市・その他 (館山市)
応募領域 : 地域文化系
実施年度 : H27 ~ 29

本事業が活動の対象とする千葉市はじめ千葉県全体には、次のような傾向がある。①県内の伝承や民話に対する認識度が低い ②能・狂言や歌舞伎など、伝統芸能に触れる機会が少ない。またそれらを見る場合、東京まで足を運ぶことが多く、千葉で公演が行われていても、「千葉で」観劇しようという意識が薄い。③地方自治体をはじめとする各団体が、文化活動を単独で行っており、各地域の連携がない。このような現状は、千葉県における伝統文化・伝承の継承・発展を困難にしている。本事業は、房総の伝承・歴史を掘り起こし、それらをモチーフに創作狂言を製作・上演することで、千葉市から房総の魅力を発信し、文化振興を図ることを目的とする。運営主体は、千葉大学・公益法人千葉県文化振興財団・NPO法人フォーエヴァー等、官民が一体となったもので、舞台運営・出演等は市民参加を中心とするプロジェクトである。

大学へ行って、健康になろう！

代表者名 : 川平 洋 (フロンティア医工学センター)
対象地 : 千葉市・その他 (東京都)
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H27

地域への愛着心「シビックプライド」を地域の教育機関（中学・高校・大学）に通学する生徒・学生が実感し、成人以降も、自分が過ごした地域への愛着、貢献を熟成することで、長期に渡る、世代を越えた地域活性化の端緒となることを目指し、世代間コミュニケーションの場を作る。千葉大学から医学・看護学・医工学等の研究を行う教員・学生が地域にアウトリーチし、自らの研究内容を若年層にアピールするキャリア教育的側面と、研究成果に基づく健康支援を高年齢・外国人層に提供する側面を並行して行うことによって、世代を超えたコミュニティ形成に寄与する。また、それらアウトリーチ活動で得られる健康測定結果や住民の活動への満足度調査を、学生がサービス工学的手法を用いて解析することによって、学生のビッグデータ解析教育を行う。

地域住民と専門職及び学生の連携 協働による支えあい地域づくり

代表者名 : 酒井 郁子 (看護学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H27

東千葉地域は、昭和40年代に宅地開発が行われ、団塊の世代が流入した住宅街である。高齢化率36.0%となり、健康問題や独居高齢者の増加などの課題が生じている。本事業の目的は、①地域の健康的な暮らしづくりをめざし、地域住民と行政職員や様々な専門職の連携協働によるコミュニティづくりを推進する仕組みをつくること、②専門職連携実践の理論を用いて、住民と専門職の連携協働の方法を開発すること、③千葉大学9学部の学生が受講可能なコミュニティづくりの普遍科目を構築することである。東千葉地域で、①研究者と行政職員が地域のコアメンバーと話し合いを行い、地域特性を把握するための情報収集、地域アセスメントを行う。②地域住民参加型のワールドカフェを実施して地域の健康的な暮らしのための課題抽出と解決策を検討する、③次年度以降に学生も参加できる地域づくりの活動計画を立てることを目標とする。

創造的コミュニティ形成に参加する 学生のフィールドスタディ

代表者名 : 木下 勇 (園芸学研究科)
対象地 : 松戸市
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H27

松戸駅周辺、北小金駅周辺はこれまでも実習のフィールドとして取り組んできた所であり、学生が関わることで、地域も活力を得て、喜ばれ、また学生にとっても大学では得られない地域社会のリアルな現場の体験を得て、おおいに教育効果をもたらしてきた。そのような、ソフト面の評価は定着してきたが、実際に、成果として目に見える形での環境改善には未だ数えるほどしかない(ポケットパークやコミュニティガーデン等)。教育の枠組みと地域の課題解決の枠組みが重なりうる領域を広げるために、どのような条件が求められるか、実際に地域から求められている課題に授業プログラムで関わりながら、その条件を整理する。

団地におけるアートの視点による ソーシャル・インクルージョン

代表者名 : 神野 真吾 (教育学部)
対象地 : 千葉市
応募領域 : コミュニティ系・地域文化系
実施年度 : H27

海浜ニュータウンが誕生してから40年が経ち、入居した住民の高齢化が進んでいる。日本の社会構造の結果、高齢化後の地域社会での関係性、つまりコミュニティの紐帯はきわめて弱い。超高齢社会においては、新たな関係性の構築による新たなコミュニティの形成が求められる。新たな地域コミュニティを形成する上では、従来の縦型の構造ではない関係性が重要となる。そのためには、あらゆる立場、階層の人たちが社会に等しく関われるような環境を構築すべきである。本事業では、既存のやり方に縛られない「新しいやり方」をイノベートする構想力と、「新しいやり方」を受け入れる寛容性を育むためアート活動を行う。

外国につながる地域住民の生活課題に 関する研究 ー千葉市を中心として

代表者名 : 鈴木 伸枝 (文学部)
対象地 : 千葉市・その他(船橋市、八千代市、東京都、神奈川県)
応募領域 : コミュニティ系・人権・男女共同参画系
実施年度 : H27

千葉県では過去10年間に外国人人口が6割以上上昇し、居住期間の長期化に伴う新たな問題も生じつつある。千葉市美浜区は特に外国人人口の増加傾向が顕著であり、毎年数百人単位で人口が上昇している。本研究では、文化人類学・社会学・社会福祉学から移住者や社会福祉の問題に取り組んできた学際的構成の研究者チームにより、現在千葉市で起きている新たな問題群を同定することを目的とし、今後の対応策を検討するための基盤づくりを行う。この目的遂行のため、千葉市および県内外で活動する支援団体等から講師を招いて研究会を3回程度開催し、情報・資料収集を進める。また千葉市および県内外の専門家・実務家とのネットワークを形成することで、地域社会の問題解決のための方図を探る。将来的には、美浜区等でフィールドワークを実施して独自のデータを収集・蓄積し、問題解決に向けた実践へと繋げたい。

平成28年度 新規研究事業

趣旨・目的

プロジェクト数
計 10

千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム を基礎としたシニアコミュニティ創設に

代表者名 : 野田 勝二 (環境健康フィールド科学センター)
対象地 : 柏市
応募領域 : 超高齢化系・住まい暮らし系・コミュニティ系
実施年度 : H28～29

千葉大学環境健康フィールド科学センターが地域に対して実施している学習プログラムの1つとして、千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム（以下、カレッジリンク）があり、グループワークを多く取り入れた問題解決・提案型のプログラムとして地域に認知されている。このカレッジリンクから、コミュニティや法人などが生まれており、地域づくりに重要な役割を果たしている。一方、柏の葉地域は高キャリアなシニアが多く、定年後もアクティブに活動している人たちを繋ぎ、街に貢献していく仕組み作りが求められている。そこで、今事業では柏の葉地域に在住しているアクティブなシニアを対象として、カレッジリンクの仕組みを取り入れた生涯現役を目指したシニアコミュニティクラブを組織し、自立運営していただけるような仕組みづくりを行うことを目的とする。

若年者に対するデートDVおよび性暴力 の相談ニーズと啓発方法の実態調査

代表者名 : 清水 栄司 (医学研究院)
対象地 : 野田市
応募領域 : 人権・男女共同参画系
実施年度 : H28

2015年12月に閣議決定された第4次男女共同参画基本計画では、社会的な変化の只中にある現代社会において、男女共同参画社会の実現の必要性がますます高まっていることが述べられている。野田市は、千葉県内でも男女共同参画に関する取組が先進的な地域であり、特にドメスティック・バイオレンス(DV)の防止や啓発に尽力している。しかし、若年者に対する、デートDVや性暴力についての防止・啓発などの働きかけなどは、十分になされているとは言い難い。野田市児童家庭部人権・男女共同参画推進課と連携し、野田市民、とりわけ若年者に対し、デートDVや性暴力の防止・啓発を推進していくことができるよう、当該事業を通じて地域貢献を行う。具体的には、野田市民や、野田市の高校生を対象に、デートDVや性暴力とその相談の実態把握のための調査の実施、相談先の周知、啓発等を行う。

松戸市における教育施設を中心 とした公共施設再編

代表者名 : 柳澤 要 (工学研究科)
対象地 : 松戸市
応募領域 : 基盤空間系
実施年度 : H28

本研究は、松戸市の教育施設やその他の公共施設の老朽化対策や再編における課題を明らかにし、また他地域・地区の先進事例のケーススタディを行いながら、その対策や再編のあり方を提案しようというものである。特に良好な地域コミュニティ形成の視点からの効果的な施設整備や空き教室転用、また教育施設と他の地域公共施設(公民館・デイケア施設・社会教育施設・社会体育施設など)の複合化・併設化の方策を探っていきたい。また施設転用や複合化に関しては施設整備などのハード面のみならず、地域と学校の効果的な連携のための運営・プログラムなどソフト面での工夫も必要となる。本研究ではハード・ソフト両面からの分析・提案を行っていききたい。

心不全の在宅医療推進に向けた講演会の開催

代表者名 : 高野 博之 (薬学研究院)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系
実施年度 : H28 ~ 29

超高齢社会をむかえ心不全患者数は今後さらに増加すると予測される。在宅医療を必要とする心不全患者数の増加も予測されるが、専門的なトレーニングを受けた薬剤師は少ない。そこで心不全の在宅医療に焦点を当てた独創的な取り組みが必要である。心不全患者の在宅医療では薬の専門的知識をもつ薬剤師の存在意義は極めて高く活躍が期待される。心不全悪化を早期に発見し再入院を防ぐためには、薬剤師にも薬物治療の効果や副作用を発見できるフィジカルアセスメント能力などが必要である。またチーム医療を推進させるためのスキルを修得しなければならない。申請者らは千葉市の薬剤師を対象に講習会を企画・開催してきた。多くの医療従事者を対象に在宅医療に関する講演会を開催し、千葉市における在宅医療をさらに浸透・推進させることが本研究の目的である。

千葉市の保険薬局における健康支援活動に関する実態調査

代表者名 : 関根 祐子 (薬学研究院)
対象地 : 千葉市・その他 (船橋市)
応募領域 : 住まい暮らし系
実施年度 : H28

申請者らは、平成 28 年 2 月より保険薬局での健康サポート活動を推進するための方法についてインタビューによる質的研究を行い、具体的な方法と実施における問題点のカテゴリー化を行った。平成 26 年のアンケート調査以降、かかりつけ薬局への関心は高まっているが、健康サポート活動はまだ十分に行われているとはいえ、現在の千葉市における健康サポート活動の実態を正確に把握し問題点解決の方法を構築することは地域住民の健康活動の向上にとっても喫緊の課題である。質的研究で明らかとなったカテゴリーをもとに千葉市ならびに船橋市の保険薬局における健康サポート活動の実態と具体的な問題点を明らかとし、保険薬局薬剤師と協力して、多くの薬局で実現可能な健康サポート活動を具体的に考案して、健康サポート活動を実践するための体制づくりや教育活動の準備を行うことを本事業の目的とする。

団地コミュニティと健康装置の開発

代表者名 : 川平 洋 (フロンティア医工学センター)
対象地 : 千葉市
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H28

会の中でドーナツ化した高齢者居住地域において、継続的に健康意識の向上と健康支援事業を大学ベースで提供することで、地域活性化の端緒となることを目指し、世代間コミュニケーションの場を作る。千葉大学から医学・看護学・医工学等の研究を行う教員・学生が地域にアウトリーチし、自らの研究内容を若年層にアピールするキャリア教育的側面と、研究成果に基づく健康支援を高齢者・外国人層に提供する側面を並行して行うことによって、世代を超えたコミュニティ形成に寄与する。また、それらアウトリーチ活動で得られる健康測定結果や住民の活動への満足度調査を、学生がサービス工学的手法を用いて解析することによって、学生のビッグデータ解析教育を行う。

食と緑のサテライトキャンパスに向けた学生のフィールドスタディ

代表者名 : 木下 勇 (園芸学研究科)
対象地 : 松戸市
応募領域 : 住まい暮らし系・コミュニティ系
実施年度 : H28

松戸地域はこれまでの取組みから、現在 2 軒の空き屋をサテライトキャンパスに活用する可能性が生まれてきている。1 軒は駅とキャンパスをつなぐ間の小さな空き店舗跡であり、もう 1 軒はキャンパスの荒廃地の住宅地の椿の庭のある屋敷である。それぞれの立地と関係団体を考慮しながら、異なるサテライトキャンパスとしての活用を考える。前者は学生の通学上なので、松戸まちづくり会議やその構成員の自治会と連携したまちづくりセンター的な機能を持ち、後者は庭と茶室を活用した生け花や茶道、その他日本文化を留学生と日本人学生、地域住民が共に学びながら国際交流を展開する拠点となることを現在は目標としてフィールドスタディを行なう。あわせて小金地区のわくわく探検隊に引き続き協力し、電線地中化後の景観形成を支援する。

アート・ネットワークによる地域活性 ～千葉市内のコミュニティと文化施設をつなぐ～

代表者名 : 神野 真吾 (教育学部)
対象地 : 千葉市
応募領域 : コミュニティ系・地域文化系
実施年度 : H28～29

住民同士のつながりが弱い千葉市域において、文化・アートの果たせる可能性を探索する。基本的な考え方としては、多くの住民は多様な出身・立場を持つ者同士であり、それを単に地域が同じということではつなぐことは難しいため、アートを単なる高尚な趣味としてとらえず、利害から離れた共有できるものとして捉え、共通のプラットフォームとして提供することを目指す。地域の文化施設も、従来の高級芸術を提供する場から、多くの市民にとって必要とされる「公益性」が問われており、そうした施設と連携することで、地域文化を醸成する場としての文化施設の再生という意味も持たせる。また「健康」「生きがい」といった多くの人たちが共有できる要素を通して、世代や立場を超えた交流を生み、多様性を受容する文化的基盤形成につなげる。

都市公園における民間活力の導入による 施設整備に関する研究

代表者名 : 岡田 哲史 (工学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 基盤空間系
実施年度 : H28

対象とする地域である稲毛・幕張海浜エリアは、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜の3つの人工海浜と、稲毛海浜公園、幕張海浜公園の2つの海浜公園である。日本一の長さのウォータースタジアムに、グローバル化が進む今日、国際的にみても“ここにしかない景観、施設群がつくりだす魅力的な空間の総体”があるにもかかわらず、土地利用の具体的なビジョンが示されてこなかった。本事業の主旨としては、当該の海浜空間が有する潜在的能力を顕在化させるべく、一般市民のみならず、外部から訪れる観光客にも認識させ、多くの魅力ある海浜空間のイメージを発展させることにある。研究目的の詳細は以下である。①民活による導入事例の既往文献や先進事例の収集と整理、②住民・企業の海浜空間の機能・効果に対する価値観の把握、③事業化区域の設定、④海浜空間での活動への展開と連携、パートナーシップによる運営を基盤としたプログラムの体系整理、とする。

千葉市緑区土気町における、地域交流 拠点としての古民家の改修及び活用 に関する研究と実践

代表者名 : 松浦 健治郎 (工学研究科)
対象地 : 千葉市
応募領域 : コミュニティ系
実施年度 : H28

1) 古民家改修を通し地域の交流拠点を築く 土気 NGO が保有する古民家の改修を計画し、単なるイベント開催の場だけでなく、日常的に地域住民が交流できる「コミュニケーションの核」となるような施設にとして生かせる。また、古民家改修を学生及び地元住民が協力して実施する事で、大学と地域との関係を築いてゆく。

2) イベントの開催を通し市民交流を促進する 土気 NGO が古民家で開催する各イベントに対して、参加者の属性(居住エリア・年齢等)を研究することで、多様な地域住民に利用されるようなイベント内容を土気 NGO に提案する。また、千葉大学の学生が中心となったイベント(古民家カフェ等)の提案・実施をすることで学生のアクティブラーニングの場としての可能性を検討する。

平成29年度 新規研究事業

趣旨・目的

プロジェクト数
計10

食と緑のサテライトキャンパス&カレッジ リンクの市民協働ネットワークの形成

代表者名 : 木下 勇 (園芸学研究所)
対象地 : 松戸市
応募領域 : 住まい暮らし系
実施年度 : H29

昨年度には2軒の空き家の整備とサテライトキャンパスの可能性を求めて、地域との連携を進めた。今後は松戸駅から松戸キャンパスまでの経路の中間にあるU邸についてはEdible Wayを活用した「食と緑」のサテライトキャンパスとしての試行を行う。また柿の木台のT邸は整備が進んだところで実際に国際日本文化交流を意図した食と緑のサテライトキャンパス化をめざす。さらに通用門前のK荘の空き家対策整備も進めようとしている。その他21世紀の森と広場の子ども館や小金地区のまちづくり拠点など、松戸においては分散型のネットワークでサテライトキャンパスを展開する方向が適していると考えられる。上記事項から、その企画と運営の構想を市民と協働のカレッジリンクに向けた準備と試行によって市民と協働で描き、継続的な運営体制の確立をめざす。

東京オリンピック・パラリンピック に向けた学生のボランティア活動

代表者名 : 下永田 修二 (教育学部)
対象地 : 千葉市
応募領域 : コミュニティ系・地域文化系
実施年度 : H29

今年も千葉県・千葉市が第2回「バラスポーツフェスタちば」を9月に開催することになっている。このイベントに向けて、今年度は学生実行委員会が結成されることになっており、すでに、そのメンバーとして千葉大学からも2名の学生委員を派遣することが決まっている。この学生委員は東京オリンピック・パラリンピックに向けて立ち上がった千葉大学学生団体おりがみに所属しており、この団体は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて、上記イベント以外に所属大学を超えて学生が協力して地域に貢献する活動について考え、取り組んでいる。そこで、本申請ではこのオリンピック・パラリンピックをきっかけとした学生の地域への貢献について考える。

地域歴史資料の保存・活用事業を 通じた地域文化形成の基盤構築

代表者名 : 小関 悠一郎 (教育学部)
対象地 : 柏市
応募領域 : 地域文化系
実施年度 : H29

本事業は、地域歴史資料の救済と保存・活用のあり方についての研究を通じて、市民の地域認識・協働意識の深化に寄与し、地域文化形成の基盤構築を目指すものである。こうした主旨・目的の下、①千葉歴史・自然資料救済ネットワークと連携した、市域に関する古文書の目録作成(リスト化)作業。②学生・市民を対象とする、歴史資料の保存・活用、及び汚損した古文書の修補に関する学習会の開催、以上の事業を実施したい。以上の事業の中心的な素材として、文学部史学科資料室において近年見出された、柏市域を出所とする歴史資料=相馬郡布施村成島家文書(段ボール20箱)を指定する。本学所蔵資料を地域課題解決の資産として活用し、上記目的を達成したい。

ちばシティサバイバルキャンプ

代表者名： 西野 明（教育学部）
対象地： 千葉市・その他（市川市・船橋市）
応募領域： 住まい暮らし系・コミュニティ系・地域文化系
実施年度： H29

東日本大震災をきっかけに、それまでも増して、日頃からの防災教育が重要となっている。自然災害はいつ発生するか予測が難しいため、常に防災に対する備えをし、対策を考え、行動できる状況を作ることが地域としての大きな課題である。千葉大学のグラウンドは広域避難場所に指定されており、2014年から防災の日のある9月にちばシティサバイバルキャンプという事業名で地域の子どもたちを対象に防災に関する体験会を実施している。またこの事業はNPO法人千葉県キャンプ協会、千葉市、市川市、船橋市のキャンプ協会とも協力して実施している。この事業を通して、地域における防災を地域の方々と一緒に考え、協力して行動できる体制をつくり、防災への意識を高めることができると考えられる。そこで本申請では、本年度もちばシティサバイバルキャンプを開催し、地域の住民の防災に対する意識を高めることを目的とし、その成果について検討する。

NPO・地域住民と連携した 西小中台団地の空き商店街の居場所再生

代表者名： 松浦 健治郎（融合理工学府）
対象地： 千葉市
応募領域： コミュニティ系
実施年度： H29

西小中台団地は築後40年以上が経過し、高齢化・空き家化が進行している。団地の中心部に位置するショッピングセンターも同様に空き店舗化が進行しており、地域の中心的な場としての位置づけがなくなりつつある。そのような中で特定非営利活動法人「ろーたす fuji」が空き店舗2軒を借りて、障害児通所支援や外国人雇用・生活サポート活動を始めようとしており、松浦研究室にまちづくり支援の要請があった。具体的には、1) 障害者の就労支援のためのコミュニティキッチン「はりまおきっちん」のスペースを活用した地域に開かれた居場所づくりの方法、2) 店舗前のオープンスペースを活用したイベントの企画・運営、などである。本事業では、西小中台団地の中心となるショッピングセンターの活気を取り戻し、またコミュニティの希薄化の解決のための実践的な取り組み（フィールドワーク、アクションリサーチ）を行うことを目的とする。

まちづくりプロモーション戦略の開発 ～千葉市の都市アイデンティティの浸透をめざして～

代表者名： 関谷 昇（社会科学研究科）
対象地： 千葉市
応募領域： コミュニティ系・地域文化系
実施年度： H29

千葉市のまちづくりの取り組みは多岐にわたるが、その取り組みに対する住民、特に若者層の関心は低い状態にある。6つの行政区ごとに、少子化や高齢化などの共通課題も少なくないが、地域固有の課題も異なっている。次世代のまちづくりの担い手である若者層の関心を深め、地域に若者を呼び込む取り組みが求められている。そこで本事業では、千葉市まちづくりの取り組みに関する住民、特に若者層への認知度の改善やさらなる理解の促進に向けた戦略的プロモーション活動として、教養講座の開設に向けた研究と試験運用に取り組む。また、若者層をターゲットにしたまちづくりの現状と課題を知るプロモーション戦略とその実践手続きの開発に取り組む。将来的に、行政職員によるオムニバス形式の出勤講座「千葉市まちづくり論」（仮称）を市内学校におけるキャリア教育の現場で講義できるようにする。

コンテンツ産業の立地と集積に向けた 経済学的・経営学的検討 ～松戸市の産業振興政策について～

代表者名： 小川 真実（社会科学研究院）
対象地： 松戸市
応募領域： 地域文化系・地域経済系
実施年度： H29

松戸市では、コンテンツ産業の立地や集積を図るための仕組みを整備することが課題になっており、産業組織（立地・集積）に関する経済学及び経営学ならびにキャリア教育の視点から連携協力が必要とされている。本提案では、松戸市のコンテンツ産業のさらなる立地や集積を図る仕組みづくりに向けて、産業立地論や産業集積論の研究成果また大学のキャリア教育の成果に基づいて政策提言を行う。現在、松戸市ではコンテンツ産業振興に向けて、地域を国内外に発信する公共コンテンツの作成とそのプロモーション活動を展開するだけでなく、起業や経営の相談や支援体制の充実に向けた取り組みを行っているものの、産業内での企業間連携であったり、異業種間とのコラボレーションに課題が山積している。本提案によって、松戸市を拠点とするコンテンツ産業の経済循環ができるようにする。

決算情報を用いた事後評価による 地方公共団体の効率的な運営手法 に関する研究

代表者名 : 大塚 成男 (社会科学研究院)
対象地 : 千葉市・柏市・その他 (君津市)
応募領域 : 地域経済系
実施年度 : H29

少子高齢化・人口減少という社会変化により、地方の財政は縮小を余儀なくされ、地方公共団体には活動の効率化が求められている。地方公共団体における事業・施設の見直しにあたっては、決算を通じた事後評価が重要になる。予算による事前統制が主であった地方公共団体の財政に関しても、地方公会計の改革・整備により、事後評価を重視する流れができてきている。しかし地方公共団体には事後評価に関する経験の蓄積がないことも事実であり、企業会計における決算情報活用のノウハウを早急に導入しなければならない。ただし、地方公共団体と民間企業では活動目的が異なる以上、単に企業会計を模倣するだけでは意味のある事後評価はできない。本研究では、整備された地方公会計情報を地方公共団体の視点から活用するための手法を具体化し、地方公共団体の行財政運営の効率化に資する方策を提言する。

高洲・高浜地区住民の心豊かな健康増進を 目的とした「健康屋台」の活動提案

代表者名 : 川平 洋 (フロンティア医工学センター)
対象地 : 千葉市
応募領域 : 超高齢化系・コミュニティ系
実施年度 : H29

千葉市海浜ニュータウン高洲・高浜地区は高齢化率が高く、人口流出によるドーナツ化現象が進んでいる。本事業ではそのような地域において、コミュニティの活性化と健康増進への意識向上を図る。継続開催によって参加者との信頼関係を樹立し、世代を越えた地域活性化の端緒となることを目指し、世代間コミュニケーションの場を作る。千葉大学から医学・看護学・医工学等の研究を行う教員・学生が地域住民と対話し、健康状態や日常生活に関する問題点や悩みを聞き取る。継続的に個人の健康データを記録し提示することで、毎回の面談時におけるコミュニケーションの円滑化を図り、引きこもりがちな高齢者の心理的・身体的な健康支援を行う。継続的な活動を行うことによって、世代を超えたコミュニティ形成に寄与する。

地域志向の健康まちづくり戦略の研究

代表者名 : 花里 真道 (予防医学センター)
対象地 : 千葉市・柏市・その他 (船橋市)
応募領域 : 基盤空間系
実施年度 : H29

対象地域は首都圏郊外の都市部とする。超高齢化社会の到来にともない、健康寿命を延伸する地域づくりが必要とされている。これまで本研究グループは、柏市をはじめとする千葉県内市町村において、健康まちづくりの研究を蓄積してきた。これらの研究で得られた知見や成果を総合し、地域志向の健康まちづくり戦略、特に都市部における実践として、新たに実施が予定されている区画整理事業において、その有効性や可能性を検証することを趣旨とする。ケーススタディとして、本研究グループと行政間でまちづくり構想の検討を具体にはじめた船橋市をケースとする。研究の結果、よりよいまちづくりの実践を通じ、研究成果の社会還元、地域貢献に資すること、またそのプロセスで得られる知見を広く様々な地域において展開していく足がかりとすることを目的とする。

更なる「地域貢献」の推進に係るプログラム

郊外コミュニティの課題解決を中心とした、地域における実践研究を社会貢献につなげると同時に、市民やNPO、行政等と連携しながら具体的なプロジェクトを実施していきます。研究成果をもとにした公開講座・セミナーも積極的に開催し、有益な知見を地域に還元するとともに、市民の学習の機会もつくります。

さらに、柏の葉キャンパスで展開されてきた「カレッジリンク・プログラム」を、千葉市や松戸市へも展開していきます。カレッジリンク・プログラムは、市民が千葉大学の授業を受けられるリカレント教育で、修了生が地域で様々な活動を展開できるようになることが期待されます。



PROGRAM

1

カレッジリンク・プログラム

▶ プログラムの目的と概要

「カレッジリンク・プログラム」とは、大学（カレッジ）と地域社会が組織的に連携（リンク）し、年齢に関わらず地域の誰もが大学で共に学びあう機会を創出する新しい学習プログラムです。柏の葉キャンパスにおいて2009年から展開され、現代の社会や地域の課題を解決するために、市民と大学が一緒になって考える場となっています。これまでに、地域で活躍する多くの

人材を輩出しており、オリジナリティ溢れる問題解決型学習プログラムとして地域に定着してきています。またこのプログラムは、P.9で紹介したサティフィケートプログラム「コミュニティ再生ケア学」のカリキュラムにおける「PBL・実習型」の選択科目のひとつでもあります。

プログラムの科目は複数開講されており、毎年テーマが変わります。大学生は普

遍教育の集中講義として受講し、市民は公開講座として参加します。市民のプログラム修了者には、千葉大学長名の履修証明書が発行されます。

2014年からは、サテライトキャンパス美浜や西千葉キャンパスを会場に、千葉でもプログラムをスタートしました。2017年には、園芸学部の教員が中心となり、松戸キャンパスでも開始しています。

■ 「カレッジリンク・プログラム」担当一覧

科目名	実施年度	担当（所属）
カレッジリンク@柏の葉	2009 - 2017	野田 勝二、三輪 正幸（環境健康フィールド科学センター）
カレッジリンク@千葉	2014 - 2017	石川 永子（コミュニティ再生ケアセンター）、縣 拓充（教育学部）、鈴木 雅之（国際教養学部）、田島 翔太（工学研究科）
カレッジリンク@松戸	2017	木下 勇（園芸学研究科）

PROGRAM @ 柏の葉

『味噌について学ぶ』

コーディネーター：野田 勝二
10/10・17・31、11/14・28、12/12



近年、健康食品として味噌が注目されています。千葉大学でも味噌の生産をしており、生産物販売所「緑楽来」で販売しています。このコースでは味噌について学びながら、味噌を作りました。そして、食による街づくりについて考えながら、味噌を使ったレシピを企画しました。



コーディネーター：三輪 正幸
10/24・31、11/3・21、12/5・12

『セグウェイによる街づくり』

近年セグウェイ（重心移動によって動きを制御する電動立ち乗り二輪車）の国内外での利用が拡大しており、現在は警察の許可を得て公道を走行することも可能になりました。柏の葉においても、セグ

ウェイを用いた多くのイベントが開催されています。本コースでは、柏の葉におけるセグウェイ活用の将来について、市民の目線で検討しました。

『街で植物を上手に育てるための基礎講座』

コーディネーター：野田 勝二
ゲスト講師：越塚 覚（千葉大学）
10/1・22・29、11/12・26、12/10



ミズナとカブを栽培しながら、園芸の基礎を座学と実習を通して学び、植物を上手に栽培する基礎知識を身につけます。プログラムを通して、街の緑の育み方について考えます。毎回、学んだこと経験したことを自分たちの言葉でまとめ、最後に園芸の基礎テキストを作りました。



『柏の葉公園 樹木守になろう』

コーディネーター：三輪 正幸
ゲスト講師：細野 哲夫（千葉大学）
10/2・9・23、11/13・20、12/10

柏の葉公園では、市民の皆さんの力を借りて、危険な樹木や元気のない樹木をいち早く発見する取り組みをはじめます。本コースでは、市民を対象として公園樹木の点検、保護、育成を行うための基礎知識を座学と実演にて解説しました。本コースを受講して修了要件を満たした方には、「柏の葉公園 樹木守（じゅもくもり）」の認定証を発行しました。

『柏市の歴史、文化、そして産業』

コーディネーター：野田 勝二
ゲスト講師：柏市生涯学習部・経済産業部
10/21、11/11・18・25、12/9



サッカーや音楽の街といったイメージがある柏市にも歴史があり、文化財がたくさんあります。また、経済が活発な街でもあります。この講座では、柏市の歴史・文化・商業・工業・農業の産業について学びました。バスで市内の文化財を巡ったり、船で手賀沼見学をしたりする中で学んだことを自分たちの言葉でまとめ、地域の人たちに柏市について知ってもらうための資料を作りました。

『庭木剪定の基礎と健康効果』

コーディネーター：三輪 正幸
ゲスト講師：細野 哲夫（千葉大学）
10/8・22・29、11/26、12/9

この講座では、自宅の庭木を美しく剪定できる技術を楽しみながら、剪定の健康効果を確認していきましました。まずは庭木の剪定の方法を専門家から学び、剪定の基本をマスターしました。剪定に慣れたら、専門家の指導の下、剪定時の脳血流動態、心拍変動性、ストレスホルモンの測定や各種の心理アンケートを実施し、結果の一部を報告しました。

『安心・安全な地域づくりの担い手養成講座』

2014

海浜ニュータウン内のサテライトキャンパス周辺地区の住民の方や行政職員、NPOの方々と共に、災害時の課題を探し安全・安心な地域づくりに向けての提案を検討しました。フィールドワークやグループワークといった体験学習を通して、地域づくりの担い手としての基礎的なスキルを身につけることを目指しました。



コーディネーター：石川 永子

ゲスト講師：中林 一樹（明治大学）、吉川 忠寛（災害都市計画研究所）、戸村 達彦・陶守 奈津子（NPO法人 ちば地域再生リサーチ）、千葉市防災対策課 他

10/1、11/18、12/13、1/10、2/14

『創造性をみがいて日常を豊かに』

コーディネーター：縣 拓充・神野 真吾

ゲスト講師：中山 晴奈（フードデザイナー）、粟津 裕介（舞台音楽家）、西村 德行（東京学芸大学）

5/31、6/13、7/5・26、8/8

日常や地域を、それまでとは異なるクリエイティブな視点から捉えられるようになるための、全5回の連続プログラムを企画・実施しました。講師には、縣・神野のほか、実践面・教育面双方に実績のある、フードデザイナー、舞台音楽作曲家、美術教育の専門家を招きました。多様な領域の専門家によるプログラムの中で、身近な物事に対する新しい眼差しや発想を、体験的に、楽しみながら学ぶことを目的とし、いずれの回にも、座学のみならず実際に手を動かしたり協働を行ったりする要素を含むワークショップの活動を組み込みました。



『地域を元気にするアプリをつくろう』

コーディネーター：鈴木 雅之・田島 翔太

ゲスト講師：佐藤 学（サイボウズ）・他 12/6・13、1/10・23・30

サイボウズ社の提供する kintone(キントーン)を用いて、「地域を元気にするアプリをつくろう」を開講した。kintoneとは、マウス操作で作成可能なクラウド型ウェブデータベースです。これまで Excel や紙、メールなどで行われていた業務を自分なりにカスタマイズしたアプリで集約することで、チームでの仕事やコミュニケーションを効率化・活性化することができます。各回の授業では、テーマを設定し、ゲスト講師の講義を受けた上で、チームでアイデアを出し合い、課題解決のための企画と独自のアプリを提案しました。アプリに関する知識や技術は求めず、基本的なパソコン操作ができれば誰でも受講することができました。

2015

『稲毛におけるクリエイティブな場づくりのためのワークショップ』

コーディネーター：縣 拓充

ゲスト講師：EAT & ART TARO（アーティスト）、林哲生・行木弥生（千葉市民ギャラリー・いなげ）、西山芽衣（株式会社マイキー）、古田紗知子（Hello Garden）、神野真吾（千葉大学）

6/11・18、7/2・9・24



かつて海辺の別荘地として栄えた「稲毛」を舞台にした、新しい場づくりのための連続ワークショップを実施しました。日常や周囲の環境をそれまでとは異なる視点で眺められるようになったり、その気づきをもとに、他者との議論の中で新しいアイデアを生み出していく上で必要となるスキルを身につけることを目標としました。同時に、「稲毛」という街の魅力を再発見することも目指しました。

2016

『地域を元気にするアプリをつくろう』

コーディネーター：鈴木 雅之・田島 翔太

ゲスト講師：佐藤 学（サイボウズ）・他

6/11、7/9、8/20、9/3、9/10



サイボウズ社の提供する kintone（キントーン）を用いて、地域課題を解決するアプリケーションを企画、制作する授業の第2弾を実施しました。各回の授業でテーマを設定し、異なる教員から講義を受けた上で、学生と市民のチームでアイデアを出し合いました。基本的なパソコン操作ができれば誰でも受講できることから、市民や学生にとって新しい体験となりました。

『映画と即興演劇（インプロ）から学ぶ日常における触発と表現』

コーディネーター：縣 拓充

ゲスト講師：絹川 友梨（インプロ・ワークス／東京大学）、杉田 協士（映画監督）

6/4・11、7/2・9・23



本コースでは、プロの表現者ではない一般の人による「日常の表現」に焦点を当てました。私たち自身の表現の可能性を考えると同時に、身近な地域を眺める新しい眼差しを獲得することをねらいとしていました。ゲスト講師には、それぞれの分野で制作活動はもちろん、教育活動も精力的に実践されている即興演劇の絹川友梨さんと、映画監督の杉田協士さんを招きました。

2017

PROGRAM @ 松戸

『食と緑のパートナー養成』

コーディネーター：木下 勇

ゲスト講師：秋田典子・野村昌史・柳井重人・三島孔明（千葉大学）

10/21、11/18、12/2・16

松戸では今、松戸駅からキャンパスまで、「食べられる景観の散策路」（Edible Way）を進めています。園芸学部の特色の「食と緑」をもっとまち全体に広げるための楽しく、多くの人に関わる仕掛けを市民と学生でもっと考えませんか。みんなで食べられるものを探して、鍋物を一緒に料理して食べたり、何か沿道を楽しくする仕掛けを考えたり、グッズを開発したり、市民と学生が面白いアイデアを出し合えば、なにかユニークなものに結実するかもと期待をし

て、まずは面白いことにチャレンジします。将来的には、市民と学生がつながり、具体的事業に展開できるネットワークをつくることも視野に入れています。



2017

PROGRAM

2

公開講座・セミナー


地域志向教育研究経費事業に採択された中心となって、各年度、地域の課題解決に資するテーマの公開講座やセミナーを、下記の回数開催しました。

■ 公開講座・セミナー開催回数

実施年度	回数	延べ参加者
平成 25 年度	11	279 人
平成 26 年度	14	1,026 人
平成 27 年度	85	4,253 人
平成 28 年度	25	3,977 人
平成 29 年度	35	1,759 人



事業全体に関するプログラム



本事業のモデル地区、千葉市美浜区の海浜ニュータウンにおける活動の拠点として、「千葉大学サテライトキャンパス美浜」（通称：サテキャン）を設置しました。このサテキャンは廃校になった小学校校舎を千葉市より賃借して運営している施設であり、2014年10月のオープン以後、様々な教育・研究・地域貢献の活動を展開しました。また本事業の成果を共有し、また事業のより意義のあるあり方について議論するために、計11件のシンポジウム・フォーラムを開催しました。

PROGRAM

1

サテライトキャンパス美浜

▶ サテライトキャンパスの概要・特徴

千葉大学サテライトキャンパス美浜（以下、サテキャン）は、千葉大学の海浜ニュータウンにおける地域を志向した活動の拠点として、廃校となった旧高浜第二小学校の校舎の一部を市より賃借し、設置したものです。

サテキャンの特徴としては、下記2点を挙げる事ができます。一つ目は、日本初の「郊外型廃校活用キャンパス」という点です。2014年に第1期の活動を開始したサテライトキャンパスは、千葉市校外に位置する旧高浜第二小学校の一部を、千葉市より賃借して設置したものです。都心部や駅

至近の廃校を大学が「サテライトキャンパス」とした先行事例は多くありますが、郊外の廃校をキャンパスとして利活用する例は全国でも初めてだと言えるでしょう。サテキャンは、行政・NPO・企業・市民などの連携による、研究・教育・地域貢献活動の拠点として運用していきます。

二つ目の特徴は、超高齢少子化社会の地域介入拠点という点です。サテキャンは、郊外住宅団地の典型地区、「海浜ニュータウン」に位置しています。この地域は、建物の老朽化、少子・高齢化を中心とする様々な課題が山積しており、これから日本全国

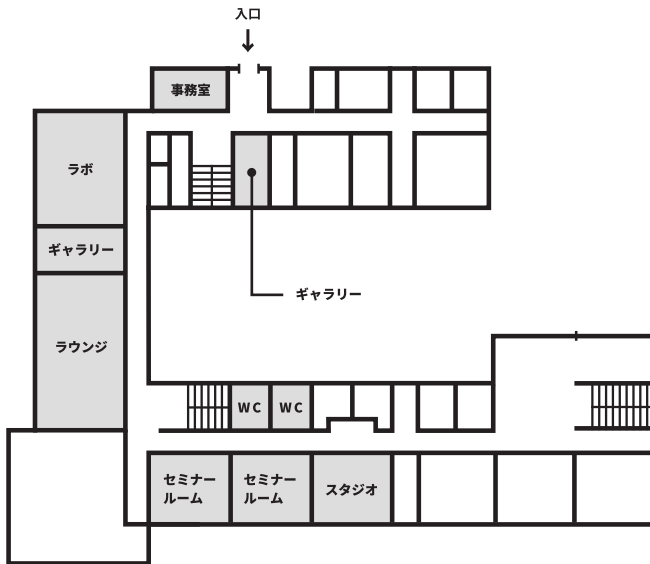
の様々な地域が迎えるであろう、課題の先進地域という言い方もできるでしょう。

サテライトキャンパスは文系理系合わせて10学部を持つ総合大学の強みを活かし、市民・教員・学生が連携する学際的な地域研究拠点です。地域の課題解決・活性化に向け、少子高齢社会のまちづくりや地域福祉、子育てなどに関する公開講座、コミュニティビジネス、アートを介したまちづくり、地域の課題解決ゼミナールなどの地域研究や地域活動を行っています。

サテキャン 第1期

廃校舎1階の空き教室を利用して、各種活動スペースを設けました (H27年8月まで)

→ P.35



サテキャン 第3期

改修工事を終え、H28年12月からは校舎の3階に施設を移して様々な活動を展開しています

→ P.37



▶ サテライトキャンパスの各期間での活動

第 0 期

～ H26.9

サテキャンがオープンするまでの準備期間に当たります。複数の授業や、地域住民と連携したイベントにより、「サテキャンをつくる」ことを皆で行いました

普遍教育教養展開科目 『 廃校小学校に大学をつくる 』

平成 26 年度にのみ開講した、廃校となった小学校に、大学としてどのような空間があることが望ましいかを考え、実際に DIY により教室空間のリノベーションを行うことを目的とした授業です。

授業ではまず、この地域で必要とされるキャンパスのあり方から議論を進め、ワークショップを重ねました。その上で、建

築学科の教員のアドバイスも受けながら、具体的な形に落とし込んでいきました。最終的に、広い空間に木製のパレットを敷き詰め、柔らかい雰囲気の「ラウンジ」空間を作り上げました。ここでは、開校式の式典を行った他、シンポジウムや子ども向けイベントなど、様々な年齢層を対象とした企画で活用されました。



地域の人々にも、「自分たちの空間」としてサテライトキャンパスに親しんでもらうために、平成 26 年 9 月 23 日に、周辺自治会や NPO の方々に協力いただき、廊下のペンキ塗りを行うイベントを開催しました。多くの方にご参加いただき、汚れていた廊下の壁が白く綺麗になりました。

また、合わせて「サテキャンに期待すること」について聞き取りを行うワークショップも実施しました。

『 市民のみなさんとのペンキ塗り作業とワークショップ 』



千葉アートネットワーク・プロジェクト (WiCAN) / 普遍教養教育科目「文化をつくる」

『 つながる装置、仕組みをかنگえる 』



WiCAN は、神野真吾准教授（教育学部）が担当する授業「文化をつくる」を中心に、千葉市美術館などと連携して展開する、地域の中でアートの可能性を探究するプロジェクト型の活動です。平成 26 年度は、「つながる装置・仕組みを考える」というテーマで、サテライトキャンパスを拠点に、手作りの「屋台」を使った様々な活動を展開しました。屋台を人と人をつなげるメディアムとして設定し、コーヒー屋台や七輪屋台、3 人で行う卓球屋台など、人と人がゆるやかにつながれるような装置を考え、自分たちで制作しました。9 月からサテライトキャンパスで木製の屋台や家具を継続的に制作するとともに、「工房」空間も設営しました。

第1期

H26.10 ~ H27.8

平成26年10月4日に開校式を開催。以後、改装工事に伴って休校に入る平成27年8月末までに、下記の活動を展開しました。この期間のプ利用者数は、総計約2,000名（市民の来訪者、立ち寄った方、学生の利用などを含む）



■ 定期的に（毎週または毎月）開催した研究・教育活動

活動名称	活動内容	担当	実施回数
地域アーカイブづくり	ワークショップ型記録収集イベント	鈴木 雅之	隔週土曜、延6回
サテキャンツアー	サテライトキャンパスの案内	山岸 輝樹	毎週水曜、延22回
防災関係イベント	・防災ビクトさん地図づくり ・遊びから学ぶ防災 ・クリスマスほのぼのあかりを作ろう ・阪神・淡路大震災から20年	石川 永子	月2回程度 延15回
mini 工房 & café	淹れたての珈琲でゆるやかに話をするコミュニケーションの場	縣 拓充	毎週木曜または金曜 延35回
アーカイブス・カフェ	家に眠っている海浜ニュータウンに関わる「もの・こと」を持参して思い出を共有する	田島 翔太	毎週金曜、延10回
エネマネ相談会	エネマネ（＝エネルギー・マネジメント）によって、省エネで快適な暮らしをするための相談会	田島 翔太	毎週金曜、延4回
対人援助研究会	対人援助の関係者の交流と情報交換、スキルアップするための研究	岡本 かおり	月1回、延6回
自分らしさ研究	簡単なハンドクラフトを通して“自分らしさ”に向き合うワークショップ	岡本 かおり	月1回、延6回

■ 不定期に行なった地域貢献活動

活動名称	活動内容	担当	開催日
カレッジリンク・プログラム	・安全・安心な地域づくりの担い手養成講座 ・創造性をみがいて日常を豊かに	石川 永子 縣 拓充	全5回 (連続プログラム)
WICAN イベント	・芸術による感性に働きかけるワークショップ ・カルチュラルカフェ	神野 真吾	不定期、延3回
アート広場	未就学児とその保護者を対象にした、親子で何かを描いたり作ったりする場	佐藤 真帆	不定期、延3回
ありのママとパパ	子育てについての情報交換会	岡本 かおり	不定期、延4回
カフェ・トリコ	珈琲と小菓子、そして会話を楽しみながら、ゆったりと編み物を行うワークショップ	佐二木 順子	不定期、延5回
サテキャンマルシェ	千葉大農産物直売会（りんごやシクラメン等の即売会）	環境健康フィールド科学センター・他	12/3（水）
団地学校@サテキャン	D I Yアドバイザーによる住まいを考えるワークショップ	N P O 法人ちば地域再生リサーチ	12/11（木）1/15（木） 2/12（木）3/12（木）
サテキャンクリスマスコンサート&こんしん会	サテキャンに集う住民の方々と交流を深めるためのクリスマスイベント	岡本 かおり 他	12/20（土）
公開講座「幸せな死を迎えるためには」	人生のエピローグを「どのように過ごしたいか」考えるきっかけを提供する啓発プログラム	高林 克日己	2/20（金）3/20（金） 6/30（火）
地域の「食」の支援をつなぐ・つくる	市民参加による食事サービスを支援してきた全国老人給食協会と連携し、新しい担い手作りや、「食」の支援に関わる社会企業について考える	清水 洋行・米村 千代・平野 覚治	3/5（木）
サテキャンで健康になろう	健康相談、健康チェック、模擬手術体験など	川平 洋・潤間 励子・他	6/13（土）
サテキャン笑市	大学生と美浜の子どもたちが協力して開催する、地域が笑いでつながるイベント	『サテキャンで地域とつながる』 受講生	8/22（土）
アート・キャンパス美浜	夜間開催の記憶と未来を探求する作品展示やコンサート	N P O 法人ちば地域再生リサーチ	8/29（土）8/30（日）

第2期

H27.9 ~ H28.12

校舎の改修工事のために、サテキャンが利用できなかった期間です。しかし、この期間も地域での継続的な活動を維持するために、別の2つの拠点を設けて、地域での活動を展開しました

『サテライトキャンパス・ミニ』

千葉市・海浜ニュータウンの廃校小学校に設置したサテライトキャンパスが、平成27年7月から平成28年11月までの期間、改修工事を行っていたため、その期間中は、近隣の商店街の空き店舗を「サテライトキャンパス・ミニ」として、平成28年3月～8月までの期間オープンし、海浜ニュータウンにおける取り組みを継続しました。ここで研究活動を推進するとともに、地域における身近な窓口としました。



『団ちば』&『健康屋台』

第0期よりサテライトキャンパス美浜で活動していた千葉アートネットワーク・プロジェクト (WiCAN) は、平成27年9月より平成28年7月まで、UR都市機構からの委託研究として、高洲第一団地内の集会所を賃借し、この場所を拠点にした活動を展開しました。集会所を「団ちば」と名づけ、団地の方々にとっての新しい居場所、あるいは新しいコミュニケーションの場になるような空間をめざし、様々な取り組みを実施しました。

また、この場所で川平洋准教授（フロンティア医工学センター）らによる地域住民を対象とした健康相談イベント「健康屋台」の活動もスタート。回を重ねるごとに来場者も増え、地域コミュニティの中で定着していきました。



第 3 期

H28.12 ~

改修工事を終えた平成 28 年 12 月より、3 階フロアに場所を移して、サテキャンの活動を再開しました。再開後は旧高浜第二小学校全体が千葉市の複合施設「はまのわ」となり、1.2 階には障害者福祉施設、及び児童発達支援施設が入っています



■ 定期的に（毎週または毎月）開催した研究・教育活動

活動名称	活動内容	担当	実施回数
オープンレクチャー&カフェ	教員が滞在して無料のレクチャーを行ったり、地域や生活の問題について地域の方々と意見交換したりする場	縣 拓充・田島 翔太	隔週水・木曜 延 42 回

■ 不定期に行なった地域貢献活動

活動名称	活動内容	担当	開催日
カレッジリンク・プログラム	映画と即興演劇から学ぶ日常における触発と表現	縣 拓充	全 5 回 (連続プログラム)
はまのわオープンフォーラム	サテライトキャンパス美浜における活動の説明に加え、はまのわに入る事業者、近隣施設や住民も含めて連携のための意見交換を行うフォーラム	コミュニティ・イノベーションオフィス	12/17 (土)
マンション模様替え DIY アイデアコンテスト 公開審査会	模様替えや、DIY、すまい方のアイデアを競う、第 1 回マンション模様替え DIY コンテストの優秀者によるプレゼンテーション付きの公開審査会を開催します	NPO 法人ちば地域再生リサーチ	1/28 (土)
サテキャン 再開トーク & カフェ	サテキャン再開に伴い、千葉大学の教員と地域の皆さんとで、対話をする場。挽きたてのコーヒーも用意	神野 真吾・縣 拓充	2/4 (土)
ななめな学校	アーティストやデザイナーといったクリエイターが先生となって、いつもとは違う「ななめな」ものの見方で、メディア・テクノロジーを使った新しい表現に挑戦する学校	千葉市メディア芸術振興事業 実行委員会	2/19 (日) 11/25 (土) 11/26 (日)
サテキャン健康屋台	地域の方の身近な健康相談の場。肺年齢や動脈硬化指数など、様々な健康状態のチェックや健康相談・歯科相談。淹れたてのコーヒーを楽しめるカフェも	川平洋・潤間励子・他	3/5 (日) 5/14 (日) 7/30 (日) 10/22 (日) 12/17 (日) H 30.2/18 (日)
ふれあいフェスティバル	複合施設「はまのわ」に入る 3 事業が共同で開催したお祭りイベント。千葉大としては、健康屋台、苔玉体験、マッサージ、減塩教室、液状化デモンストレーションなどを開催	千葉市療育センター NPO 法人 EPO 千葉大学サテライトキャンパス美浜	H 30.2/18 (日)



キックオフ・シンポジウム「大学と地域の共創まちづくり」

日 時：平成 26 年 1 月 12 日（日）15：00～18：00
 会 場：千葉大学西千葉キャンパス けやき会館
 参加者：280 名

本事業の特徴は、大学・自治体・NPO・等の協働によって、地域志向の新たな教育の取組を進め、地域を元気にする活動を高めていくことにあります。このシンポジウムは、千葉大学COC事業のキックオフに際し、「大学と地域の共創まちづくり」というテーマのもと、大学・自治体・地域の立場から、事業への期待と可能性について考える機会としました。



- ・主催者挨拶 齋藤康（千葉大学長）
- ・首長からのビデオレター
（千葉県知事、松戸市長、柏市長、野田市長より）
- ・基調講演『これからの郊外コミュニティ』
三浦 展（カルチャースタディーズ研究所代表）
- ・パネルディスカッション『大学と地域の共創まちづくり』
【司 会】上野 武（コミュニティ再生・ケアセンター長）
【登壇者】鈴木 雅之（コミュニティ再生・ケアセンター副センター長）
熊谷 俊人（千葉市長）
服部 岑生（ちば地域再生リサーチ理事長）
三浦 展（カルチャースタディーズ研究所代表）
- ・閉会挨拶 山本恵司（千葉大学理事）

サテライトキャンパス美浜開校式

日 時：平成 26 年 10 月 4 日（土）13:30～16:30
 会 場：サテライトキャンパス美浜
 参加者：200 名

サテライトキャンパスの使用準備が整ったことから開校式を開催し、千葉大学、千葉市、美浜区の関係者に加え、地元住民、企業、NPO 関係者などキャンパスに関わる多くの方を招いて、キャンパスやその活動について広く周知・広報を行ない、今後の利用の促進を図りました。



- ・主催者挨拶 徳久剛史（千葉大学長）
- ・来賓挨拶
熊谷俊人（千葉市長）
東秋沙（NPO法人ちば地域再生リサーチ事務局長）
中津川 瑩（学生）
竹村 涼（学生）
- ・URとの協定締結披露
守安雅志（UR都市機構本部長）
- ・文部科学省より挨拶（代読）

けやき倶楽部との共催シンポジウム

「地域貢献：地域創成の核を担う大学と市民は何ができるか」

日 時：平成 27 年 1 月 24 日（土）13:30～16:30
 会 場：千葉大学人文社会科学系総合研究棟 2 階マルチメディア会議室
 参加者：42 名

大学は、公開講座や社会の様々な事業に対する助言、政策への関わりによって地域貢献に関わってきました。そして市民も地域の中でそれぞれの場を支える役割を果たしています。このシンポジウムでは、「地域貢献」に関して「大学ができること」と「市民ができること」を考え、そのあり方を討議しました。



- ・主催者挨拶
生田幹男（けやき倶楽部会長）
- ・パネルディスカッション
【コーディネーター兼パネラー】
鈴木雅之（コミュニティ再生・ケアセンター 副センター長）
【パネラー】
服部岑生（千葉大学名誉教授）
鈴木敬子（逗子市体験学習施設専門指導員）
石川永子（千葉大学特任准教授）

「産官学民連携による地域課題解決とその体験を通じた学び」

日 時：平成 27 年 2 月 21 日（土） 13:00～18:00

会 場：聖徳大学 7号館

参加者：180名

東京の郊外住宅地として発展してきた松戸市は、少子高齢・人口減少といった現代日本の抱える課題の先端地域となっており、産官学民が連携して課題に取り組み、課題を克服していく必要があります。「住んでよいまち・訪ねてよいまち松戸」の実現のために、地（知）の拠点としての大学に求められる役割とはどのような事なのか、特に人材育成の面で大学と地域が連携することにはどのような可能性があるのかについて、市民・行政・大学・市民と共に考えるシンポジウムを開催しました。また両大学で取り組んだ産官学民の連携による地域志向の教育・研究・社会貢献活動の成果展示を同時開催しました。



・開会挨拶

増井 三夫（聖徳大学・聖徳大学短期大学部副学長）
徳久 剛史（千葉大学長）
本郷谷 健次（松戸市長）

・事業報告

千葉大学：上野 武（コミュニティ再生・ケアセンター長）＋学生
聖徳大学：塚本 美知子（保育科〈第一部〉長）＋箕輪裕子（総合文化学科准教授）＋学生

・基調講演 『「地（知）の拠点」に期待すること—コミュニティビジネスの立場から—』

永沢 映（NPOコミュニティビジネスサポートセンター代表理事）

・パネルディスカッション① 『パネラーからの話題提供』

【大学の立場から】野中 博史（聖徳大学短期大学部総合文化学科長）
柳井 重人（千葉大学園芸学研究科准教授）
【経・産の立場から】浦野 隆史（伊勢丹松戸店総務部長）
【行政の立場から】高橋 正剛（松戸市役所政策推進課長）
【市民の立場から】庄子 渉（松戸まちづくり会議事務局）

・パネルディスカッション 『産官学民連携による地域課題解決とその体験を通じた学び』

【コーディネーター】永沢映（NPOコミュニティビジネスサポートセンター代表理事）

・閉会挨拶

中谷晴昭（千葉大学理事）
岡田耕一（聖徳大学短期大学部保育科〈第二部〉長）

・活動成果展示

アートキャンパス美浜 2015

日 時：平成 27 年 8 月 29 日（土）30 日（日）18:00～20:30

会 場：サテライトキャンパス美浜

参加者：600名

サテキャンは、旧高浜第二小学校改修のため平成 27 年 9 月から 1 年間休校しました。そこで、「休校前の”つながる”催し 2015」では、地域と大学がつながるイベント『アートキャンパス美浜 2015』を開催しました。

このイベントでは、旧高浜小学校を会場に、過去と未来をつなげる光のアート展として映像やインスタレーションなど多領域の作品を展示しました。



・主催者挨拶

服部 岑生（NPO法人ちば地域再生リサーチ理事長）

・来賓挨拶

熊谷 俊人（千葉市長）
北川 裕子（千葉市立高浜海浜小学校 校長）
上野 武（コミュニティ再生・ケアセンター長）
鈴木 雅之（コミュニティ再生・ケアセンター副センター長）

・光のアート展

アート教室展示・アート校舎投影
ジャズバンド演奏



けやき倶楽部との共催シンポジウム「首都直下地震を生き抜くために：災害時の医・食・住を考える」

日 時：平成 28 年 2 月 13 日（土） 13：00～16：45
会 場：千葉大学けやき会館大ホール
参加者：280 名

このシンポジウムでは、首都直下地震をテーマとして各方面の専門家を招き、公助・共助・自助の観点から防災、減災を考え直しました。具体的には、災害時の医療（DMAT 活動）と医療コーディネート、千葉県の防災備え、千葉市の食の備え、地域の防災対策、家庭の防災準備、阪神淡路大震災の体験などの報告を通して「今日から何をなさねばならないか」を議論しました。



・主催者挨拶

高垣 美智子（千葉大学副学長）
生田 幹男（けやき倶楽部会長）

・基調講演

中林 一樹（明治大学危機管理研究センター特任教授）

・パネルディスカッション

【コーディネーター兼パネラー】

鈴木 雅之（コミュニティ再生ケアセンター副センター長）
【パネラー】

渡邊 栄三（千葉大学医学部附属病院 救急科・集中治療部 准教授）

浅尾 一巳（千葉県防災危機管理部防災政策課主幹）

飯田 正夫（千葉市総務局防災対策課 課長）

永井 明（けやき倶楽部会員）

渡邊 雄子（けやき倶楽部会員）

「市民のチカラが地域をつくる

— 柏における 3 つの学びプログラムの現状、課題、そして未来 —

柏市には、「千葉大学カレッジリンク・プログラム」のほか、「UDCK まちづくりスクール」「かしわ市民大学」と、市民参加による地域の問題解決型プログラムが 3 つ存在します。いずれも特色ある活動であり、このようなプログラムが活発に行われているのは、全国的にも極めて珍しいと言えます。このシンポジウムでは、3 つのプログラムの代表からそれぞれの取り組みや成果について報告をしてもらった上で、今後の活動や街づくりのビジョンについて、フロアを交えてディスカッションを行いました。



日 時：平成 28 年 3 月 6 日（日） 13：30～16：00

会 場：千葉大学柏の葉キャンパス内 シーズホール

参加者：60 名

・開会挨拶

上野 武（コミュニティ再生・ケアセンター長）
秋山浩 保（柏市長）

・3 つの学びプログラムの報告

【カレッジリンク・プログラム】：三輪 正幸（千葉大学）

【UDCK まちづくりスクール】：豊田亜美（UDCK）

【かしわ市民大学】：柏市協働推進課

・パネルディスカッション

【パネラー】 三輪正幸（千葉大学）

豊田亜美（UDCK）

濱田逸郎（かしわ市民大学推進委員会委員長／江戸川大学）

【司会】 野田勝二（千葉大学）

・閉会挨拶

小原均（千葉大学環境健康フィールド科学センター副センター長）

「はまのわオープンフォーラム」

改装後「はまのわ」として再オープンした旧高浜第二小学校の廃校舎では、サテキャンのほか千葉市療育センターと NPO 法人 EPO が事業を展開しています。はまのわのオープンにあたり、その活動の地域への周知、近隣の住民や団体との意見交換、今後の連携についての議論を目的にフォーラムを開催しました。



日 時：平成 28 年 12 月 17 日（土） 30 日（日） 14：00～16：00

会 場：サテライトキャンパス美浜

参加者：40 名

・開会挨拶 出席者紹介

・はまのわ各事業所 活動紹介

【千葉大学サテライトキャンパス美浜】

【千葉市療育センター】

【NPO 法人 EPO】

・はまのわ施設見学

・今後に向けた意見交換・座談会

COC+ との合同シンポジウム

「“ちば”共創都市圏」クロストーク」

千葉市では、“ちば”共創都市圏というコンセプトで、千葉市とその周辺都市が有する様々な資源を有効活用し、市の機能集積や拠点性を最大限生かすことで、東京でも地方でも得られない魅力的なライフスタイルや新たな価値観を周辺都市と「共」に「創」りあげる取組を始めようとしています。千葉大学においても、

千葉地方圏の活性化を目標として取組を進めています。

このイベントは、市と大学が共有するビジョンの実現に向けて、今後の取組の展開や推進について意見交換する場としてを設けられました。また、併せて生涯活躍のまちセミナー『千葉大学連携の「生涯活躍のまち」』を開催しました。

日時：平成28年3月22日（水） 15:30～17:00

会場：千葉大学けやき会館大ホール

参加者：236名

・主催者挨拶

・基調講演 熊谷 俊人（千葉市長）

・クロストーク

『「千葉市」と「地方圏」の資源を結びつけ、新たな価値を共に創る』
【パネラー】

熊谷 俊人（千葉市長）

小出 譲治（市原市長）

太田 洋（いすみ市長）

【司会 / 進行】鈴木 雅之（千葉大学 COC+ 推進コーディネーター）

普遍教育科目「千葉の地域を知る」公開フォーラム

「柏・松戸・千葉 3市町に学ぶ」

日時：平成29年10月12日（木）、19日（木）、26日（木） 10:30～12:00

会場：千葉大学西千葉キャンパス 国際教養学部棟5階 G8-502 講義室

参加者：396名 / 3回計

千葉大学の普遍科目「千葉の地域を知る」は、千葉県の地域が持つ課題やポテンシャルを把握し、今後の千葉の地域のあり方を考える授業です。この科目のうち、柏市、松戸市、千葉市の市長が講義する回を公開フォーラムとしました。3市長から学生や一般市民の方に対して、それぞれの地域や政策の特徴や、市や市長の仕事について語ってもらいました。



秋山浩保 柏市長



本郷谷 健次 松戸市長



熊谷 俊人 千葉市長

・コーディネーターによる紹介

鈴木 雅之（コミュニティ再生ケアセンター副センター長）

・3市長ご講義

【柏市】 秋山浩保 市長（10月12日）

【松戸市】 本郷谷健次 市長（10月19日）

【千葉市】 熊谷俊人 市長（10月26日）

・質疑応答

公開フォーラム

「地域コミュニティのための研究と教育 研究報告会 & 交流会」

日時：平成29年12月22日（金） 14:30～17:40

会場：千葉大学西千葉キャンパス 楓ホール

参加者：95名

本フォーラム第1部では、クリエイティブコミュニティ創生拠点千葉大学が、この4年の間に展開してきた地域貢献型研究のうち、10の研究成果について教員や学生が口頭で発表を行いました。

第2部では、地域研究のポスター発表とともに、地域で行った実習型授業や学生主体のプロジェクトなどを紹介しました。なお第2部は教員・学生・市民を含めた交流会も兼ねました。



・開会挨拶

上野武

・地域志向教育研究費事業 取り組みと成果の概要

鈴木雅之

・地域志向教育研究経費事業 口頭発表

各教員・学生

・ポスター発表・交流会

地域志向教育研究経費事業 ポスター発表

学生によるPBL系科目 / COC+ プロジェクト紹介

地域志向活動アーカイブ

アーカイブの対象となる活動内容

1 地域に関する研究・教育・事業

- ・都市・地域の課題発見や課題解決に向けた取り組み、地域活性化のための活動を含むもの。社会問題、都市・地域を構成する要素に関する内容であって、それらと地域との関係やつながりに関するものを含む。
- ・都市・地域の産業振興、雇用創出に関わる研究、事業
- ・地域に出て行なう調査あるいはフィールドワーク、地域診断
- ・千葉の歴史や自然、文化に関する調査や活動

2 地方公共団体・地域住民・地域団体・企業（NPO・商店会等）・地域産業・教育機関・医療機関等と連携し行なう研究・教育・地域貢献

- ・地域における研究拠点づくり（総合的な地域研究拠点）
- ・地方自治体との連携（共同研究、助成、委託研究、等）
- ・地方自治体の審議会の委員等、専門委員、自治体職員の研修指導、等
- ・地域産業・職能団体連携（共同研究、開発指導、産業振興、研修指導、研究会、講演会・シンポジウム、等）
- ・生涯学習・社会教育（市民個人を対象とするもの。公開講座、企画展示、講演会・シンポジウム、普及・啓発活動、等）
- ・まちづくり・地域づくり（地域社会を対象とするもの。まちづくり・地域づくり活動、地域振興、市民活動支援、研修指導、地域防災、災害支援、等）
- ・持続可能社会の実現（環境保全・改良、普及・啓発活動、等）
- ・地域文化・スポーツ（地域における文化・芸術活動、地域スポーツ振興、等）
- ・小中高校連携、県内大学連携（出前授業、模擬講義、等）
- ・大学発（大学発ベンチャー、大学発NPO）

※以上の「地域」とは、特定の範囲からなる地域等で、日本全体や国レベルは対象としない。

ホームページ掲載情報の概要

総件数：463件（平成29年3月31日現在）

情報の分類：

- ・教育・研究・地域貢献による総合的な地域再生活動 66件
- ・地域課題解決に関する取組 37件
- ・学生による地域課題解決の取組 8件
- ・地域に関する教育 15件
- ・地域に関する研究 17件
- ・研究・産業拠点の形成 8件
- ・地域人材の知識・技術向上 49件
- ・市民講座・市民相談 57件
- ・講演会・研修会講師 56件
- ・コンサルティング・アドバイス 12件
- ・小中高大連携 56件
- ・審議会・委員会委員 82件

ホームページ

<https://www.coc.chiba-u.jp/2014regionalcontribution/>

（掲載情報：活動名・事業名、内容（概要）、担当者、連携先URL）



広報活動・メディア掲載

本事業の体制や取り組みについて広く知ってもらうために、インターネットを活用した広報活動を展開しました。公式ウェブサイトやfacebook ページを開設し、さまざまな事業活動の最新情報を発信したり、教育プログラムへの参加を募ったりしました。

また、外部の各メディア（新聞、情報誌、テレビ、ラジオ）にも、本事業の取り組みを掲載・放映していただきました。

▶ インターネットでの広報活動

公式ウェブサイト



<https://www.coc.chiba-u.jp/>



facebook ページ



<https://www.facebook.com/cocchiba>



▶ メディア掲載・放映一覧

- ・千葉日報 平成 25 年 11 月 19 日（朝刊）『地域との連携目指す 千葉大でシンポジウム』
- ・読売新聞 平成 26 年 1 月 9 日（朝刊・千葉版）『千葉大 地域課題に全学で』
- ・日本経済新聞 平成 26 年 1 月 11 日（朝刊 千葉・首都圏経済版）『地域の課題解決 大学挙げ挑戦』
- ・千葉日報 平成 26 年 1 月 13 日（朝刊）『地域との連携目指す 千葉大でシンポジウム』
- ・日本経済新聞 平成 26 年 4 月 17 日（朝刊）『団地高齢化 学際で対策 千葉大コミュニティ再生ケアセンター』
- ・産経新聞 平成 26 年 9 月 26 日（朝刊・千葉版）『廃校をキャンパスに 千葉大、地域活性化へ新拠点』
- ・千葉日報 平成 26 年 9 月 28 日（朝刊）『旧高浜二小にキャンパス 地域貢献の拠点到』
- ・朝日新聞 平成 26 年 9 月 29 日（朝刊・千葉版）『千葉大、廃校に地域研究拠点 千葉・美浜 旧高浜二小に来月開校』
- ・毎日新聞 平成 26 年 10 月 3 日（朝刊・千葉版）『廃校にサテライト校 あすオープン 地域の課題解決へ』
- ・読売新聞 平成 26 年 10 月 4 日（朝刊・千葉版）『千葉大が「地域再生拠点」 美浜区の廃校利用 住民と学ぶ場に』
- ・千葉日報 平成 26 年 10 月 5 日（朝刊）『地域の課題解決へ拠点 サテライトキャンパス美浜 千葉大、旧高浜二小に開設』
- ・日本経済新聞 平成 26 年 10 月 15 日（朝刊）『千葉大と UR 地域の課題解決で協定』
- ・東京新聞 平成 27 年 2 月 4 日（朝刊）『地域連携を考える 松戸で 21 日シンポ』
- ・ちいぎ新聞 平成 29 年 4 月 7 日号（稲毛版・美浜版・千葉北版）『旧高浜第二小学校「はまのわ」で千葉大学サテライトキャンパス美浜』
- ・月刊スクールアメニティ（ポイックス社）平成 26 年 10 月 20 日発行
- ・日経グローバル（日本経済新聞社）平成 26 年 11 月 3 日発行
- ・千葉商工会議所会報「夢シティちば」3 月号 平成 28 年 3 月 10 日発行
- ・河合塾「Guideline」平成 28 年 7・8 月号
- ・ベネッセ教育総合研究所「VIEW 21 高校版」平成 28 年 8 月号
- ・ニューファミリー新聞社「ニューファミリーけいよう」平成 29 年 2 月 24 日号
- ・NHK「首都圏ネットワーク」平成 26 年 10 月 6 日（月）（4 分 19 秒）『廃校に大学のキャンパス その理由は？』
- ・千葉テレビ「NEWS チバ 6 0 0」平成 26 年 10 月 6 日（月）（1 分 32 秒）『廃校を活用 サテライトキャンパス』
- ・bayfm「バイ・モーニング・グローリー」平成 27 年 1 月 18 日（日）

コミュニティ・イノベーションオフィス

・スタッフ

上野 武 / Takeshi Ueno
コミュニティ再生・ケア部門長
工学研究科 教授

鈴木 雅之 / Masayuki Suzuki
地域イノベーション部門長
国際教養学部 准教授

縣 拓充 / Takumitsu Agata
教育学部 特任助教

田島 翔太 / Shota Tajima
工学研究院 特任助教

菊地 勇次 / Yuji Kikuchi
学務部教育企画課

坂田 良之 / Yoshiyuki Sakata
学務部教育企画課

日向 聖子 / Satoko Hyuga
学務部教育企画課

池原 由樹 / Yuki Ikehara
学務部教育企画課

吉岡 三恵 / Mie Yoshioka
学務部教育企画課

岡本 康葉 / Yasuha Okamoto
学務部教育企画課

・これまでのスタッフ

石川 永子 / Eiko Ishikawa
コミュニティ再生・ケアセンター
特任准教授

山岸 輝樹 / Teruki Yamagishi
コミュニティ再生・ケアセンター
特任助教

岡本 かおり / Kaori Okamoto
医学研究院 特任助教

市川 裕千 / Hirokazu Ichikawa
学務部教育企画課

堀内 伸也 / Shinya Horiuchi
学務部教育企画課

天野 千恵子 / Chieko Amano
学務部教育企画課

河野 明広 / Akihiro Kono
学務部教育企画課

佐瀬 紀子 / Noriko Sase
学務部教育企画課

鈴木 沙和 / Sawa Suzuki
学務部教育企画課

西崎 沙織 / Saori Nishizaki
学務部教育企画課

佐々木 光 / Hikari Sasaki
学務部教育企画課

京極 利枝 / Kikue Kyogoku
学務部教育企画課

白井 めぐみ / Megumi Shirai
学務部教育企画課

運営委員会（平成 29 年度）

山田 賢 / Masaru Yamada
理事（広報・情報担当）

渡邊 誠 / Makoto Watanabe
理事（教育・国際担当）

上野 武 / Takeshi Ueno
コミュニティ再生・ケア部門長

鈴木 雅之 / Masayuki Suzuki
地域イノベーション部門長

小澤 弘明 / Hiroaki Ozawa
全学教育センター長

鈴木 健之 / Kenji Suzuki
企画総務部渉外企画課 課長

菊地 勇次 / Yuji Kikuchi
学務部教育企画課 課長

清水 洋行 / Hiroyuki Shimizu
人文科学研究院 教授

神野 真吾 / Shingo Jinno
教育学部 准教授

大塚 成男 / Shigeo Ohtsuka
社会科学研究院 教授

宮内 崇裕 / Takahiro Miyauchi
理学研究科 教授

小林 秀樹 / Hideki Kobayashi
工学研究科 教授

清水 栄司 / Eiji Shimizu
医学研究院 教授

山崎 真巳 / Mami Yamazaki
薬学研究院 准教授

石丸 美奈 / Mina Ishimaru
看護学研究科 准教授

木下 勇 / Isami Kinoshita
園芸学研究科 教授

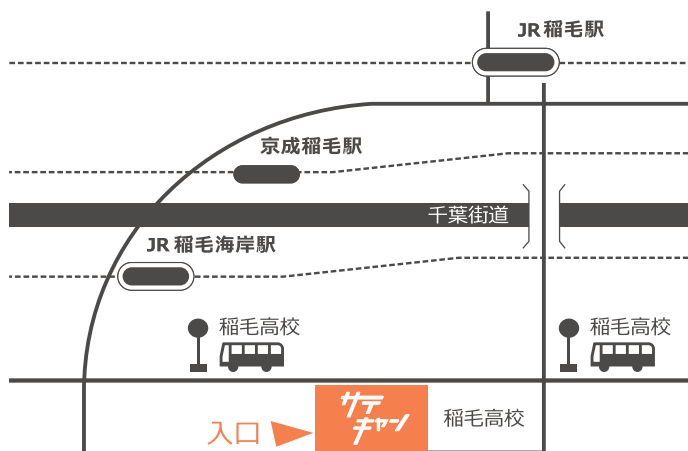
藤田 伸輔 / Shinsuke Fujita
医学部附属病院 地域医療連携部長

オフィス案内 (アクセス)



コミュニティ・イノベーション オフィス

〒263-8522
 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
 西千葉キャンパス 学際研究棟
 (旧薬学部1号館) 1階
 Tel: 043-251-1111 (内線 4144)
 Email: ccrc@chiba-u.jp
 Web: <https://www.coc.chiba-u.jp/>



サテライトキャンパス美浜

〒261-0003 千葉県千葉市美浜区高浜町3-3-1 3階

JR 稲毛駅 (総武線)、京成稲毛駅 (京成千葉線) から
 ▼
 「高浜車庫」「花の美術館」「海浜プール」行きバス乗車 10分
 「稲毛高校」下車、徒歩 6分

JR 稲毛海岸駅 (京葉線) から
 ▼
 「稲毛駅」行きバス乗車 10分、「稲毛高校」下車、徒歩 6分

千葉大学 地（知）の拠点整備事業
クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学
活動報告書

発行

千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス

発行日

平成 30 年 3 月 26 日

編集

縣 拓充

デザイン

松山 敬典

連絡先

〒 263-8522

千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

西千葉キャンパス 学際研究棟（旧薬学部 1 号館）1 階

Tel: 043-251-1111（内線 4144）

Email: ccrc@chiba-u.jp

Web: <https://www.coc.chiba-u.jp/>

印刷

印刷の通販グラフィック